

浜中町国民健康保険 第1期データヘルス計画

平成30年3月
浜中町

第1章 計画策定について	
1. 背景	3
2. 基本方針	4
3. データヘルス計画の位置づけ	5
4. 計画期間	5
第2章 現状と課題把握	
1. 保険者の特性把握	6
(1) 基本情報	6
(2) 医療費等の状況	8
(3) 特定健康診査受診状況及び特定保健指導実施状況	9
① 特定健康診査	9
② 特定保健指導	11
(4) 介護保険の状況	13
(5) 主たる死因の状況	17
2. 過去の取り組みの考察	19
(1) 過去の各事業達成状況	19
(2) 過去の各事業実施内容	21
① 特定健康診査事業	21
② 特定保健指導事業	22
③ 糖尿病性腎症重症化予防事業	23
④ 健診異常値放置者受診勧奨事業	24
⑤ ジェネリック医薬品差額通知事業	25
3. 医療情報分析結果	26
(1) 基礎統計	26
(2) 高額レセプトの件数及び医療費	27
① 高額レセプトの件数及び割合	27
② 高額レセプト発生患者の疾病傾向	28
(3) 疾病別医療費	30
① 大分類による疾病別医療費統計	30
② 中分類による疾病別医療費統計	32
4. 保健事業実施に係る分析結果	39
(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析	39
(2) 特定保健指導に係る分析	40
(3) 健診異常値放置者に係る分析	41
(4) 糖尿病性腎症重症化予防に係る分析	43
(5) ジェネリック医薬品普及率に係る分析	47

	5. 分析結果に基づく健康課題の把握	49
	(1) 分析結果	49
	(2) 分析結果に基づく課題とその対策	51
第3章 保健事業実施計画		
	1. 各事業の目的と概要一覧	53
	2. 全体スケジュール	55
	3. 各事業の実施内容と評価方法	56
	(1) 特定健康診査受診勧奨事業	56
	(2) 特定保健指導事業	59
	(3) 健診異常値放置者受診勧奨事業	61
	(4) 糖尿病性腎症重症化予防事業	64
	(5) ジェネリック医薬品差額通知事業	66
第4章 その他		
	1. データヘルス計画の見直し	69
	(1) 評価	69
	(2) 評価時期	69
	2. 計画の公表・周知	69
	3. 事業運営上の留意事項	70
	4. 個人情報の保護	70
地区分析		
	1. 大分類による疾病別医療費地区別統計	
	2. 中分類による疾病別医療費地区別統計	
巻末資料		
	1. 「指導対象者群分析」のグループ分けの見方	
	2. 用語解説集	
	3. 疾病分類表	

第1章 計画策定について

1. 背景

「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)においては、「全ての健康保険組合に対し、レセプト等のデータ分析、それに基づく加入者の健康保持増進のための事業計画として「データヘルス計画」の作成・公表、事業実施、評価等の取組を求めるとともに、市区町村国保が同様の取組を行うことを推進する。」としている。データヘルス計画には健康・医療情報(健康診査の結果やレセプト等から得られる情報)を活用し、健康状態や健康課題を客観的な指標を用いて示すこととある。また、これら分析結果を踏まえ、直ちに取り組むべき健康課題、中長期的に取り組むべき健康課題を明確にし、目標値の設定を含めた事業内容の企画を行うこととしている。実施計画に基づく事業の実施に当たっては、費用対効果を考慮することや、レセプトを活用し、生活習慣の改善により予防効果が大きく期待できる者を明確にし、優先順位をつけて行うこととある。

また、「日本再興戦略2016」(平成28年6月2日閣議決定)においては、「データヘルス計画を通じた企業や保険者等による健康・予防に向けた取組を強化する。」としている。こうした背景を踏まえて策定した第1期データヘルス計画の策定・実施・見直しを行い被保険者の健康維持増進を図る。

レセプトを用いた現状分析は、株式会社データホライゾンの医療費分解技術、傷病管理システム、レセプト分析システムおよび分析方法を用いて行うものとする。

※医療費分解技術(特許第4312757号)

レセプトに記載されたすべての傷病名と診断行為(医薬品、検査、手術、処置、指導料等)を正しく結び付け、傷病名毎の医療費を算出する。

※傷病管理システム(特許第5203481号)

レセプトに記載されている傷病識別情報、医薬品識別情報及び診療行為識別情報に基づき、傷病の重症度を判定する。

※レセプト分析システムおよび分析方法
(特許第5992234号)

中長期にわたるレセプトから特定の患者についてアクティブな傷病名とノンアクティブな傷病名を識別する。

2. 基本方針

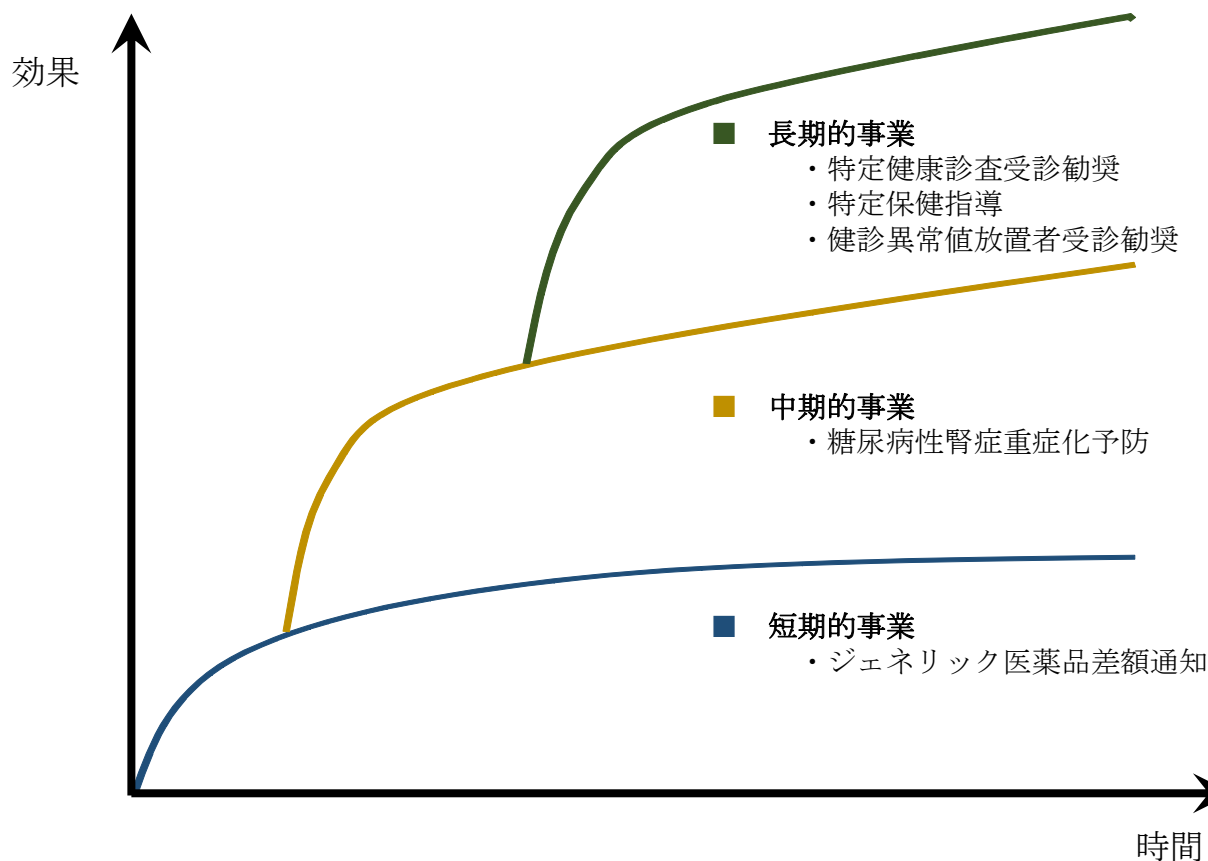
データヘルス計画では、短期的に取り組むべき対策と、中長期的に取り組むべき対策について、それぞれの段階にあった事業を行うことを計画する。

目標とする成果を達成するために、以下の基本方針でデータヘルス計画を策定する。

1. 潜在する課題を確認するため、疾病ごとの医療費比較、高額レセプトの発生状況や発生元となる疾病の把握を行い課題を明確にする。
2. 明確となった課題より、「短期的な対策」・「中長期的な対策」を選択する。費用対効果の見込める集団を特定し、PDCAサイクルを意識した継続的な事業を実施する。
3. データヘルス計画には、実施事業に対する明確な目標を設定し、記載する。またこの目標を達成することのできる効果的な実施方法を検討し、明示する。目標に対する客観的な効果測定が必要であることから、事業実施後の効果測定方法についても記載することとする。

事業には、即効性があるが効果額が小さい短期的事業と、即効性はないが将来の大きな医療費削減につながる中・長期的な事業がある。

下図は代表的な保健事業の組み合わせである。これら事業を浜中町国民健康保険の実情に合わせて、効率良く実施する。



3. データヘルス計画の位置づけ

「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21(第2次))」に示された基本方針を踏まえるとともに、「北海道健康増進計画」及び「浜中町健康増進計画(第2次)」で用いた評価指標を用いる等、それぞれの計画と整合性を図る必要がある。

4. 計画期間

本データヘルス計画の計画期間は、「国民健康保険法に基づく保健事業の実施等に関する指針」第4の5において、「特定健康診査等実施計画及び健康増進計画との整合性を踏まえ、複数年とすること」とされていることから、第3期特定健康診査等実施計画期間である、平成30年度から平成35年度までの6年間とする。

■ 計画期間

平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
					

■ データ分析期間

- ・ 国保データベース(KDB)システムデータ
平成26年度～平成28年度(3年分)
- ・ 入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト
単年分析
平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)
- ・ 健康診査データ
平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)

第2章 現状と課題把握

1. 保険者の特性把握

(1) 基本情報

本町の平成28年度における、人口構成概要を以下に示す。高齢化率(65歳以上)は29.0%であり、道との比較ではほぼ等倍、同規模との比較で2.7ポイント下回っている。また、国民健康保険被保険者数は2,815人で、町の人口に占める国民健康保険加入率は46.1%である。国民健康保険被保険者平均年齢は46.0歳である。

人口構成概要(平成28年度)

	人口総数(人)	高齢化率 (65歳以上)	国保被保険者数 (人)	国保加入率	国保被保険者 平均年齢(歳)	出生率	死亡率
浜中町	6,101	29.0%	2,815	46.1%	46.0	8.0%	14.1%
道	5,370,807	29.6%	1,312,938	24.4%	52.6	6.6%	11.6%
同規模	7,349	31.7%	2,069	28.2%	53.1	6.4%	14.4%
国	127,907,086	26.8%	32,587,866	25.5%	50.7	7.8%	10.3%

※「道」は北海道を指す。以下すべての表において同様である。

出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

道・国の人口総数、高齢化率、出生率、死亡率は下記を出典元とする

<https://www.e-stat.go.jp/> 「e-Stat 政府統計の総合窓口」

平成27年～平成29年1月1日住民基本台帳人口・世帯数、(前年1月1日から同年12月31日まで)人口動態(都道府県別)(総計)

平成27年～平成29年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口(市区町村別)(総計)

同規模欄は国保データベース(KDB)システムを出典元とする。

男女・年齢階層別 被保険者数構成割合ピラミッド(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「人口及び被保険者の状況」

本町の平成26年度から平成28年度における、人口構成概要を年度別に示す。平成28年度を平成26年度と比較すると、国民健康保険被保険者数2,815人は平成26年度3,004人より189人減少しており、国民健康保険被保険者平均年齢46.0歳は平成26年度45.3歳より0.7歳上昇している。

年度別 人口構成概要

区分		人口総数 (人)	高齢化率 (65歳以上)	国保被保険者数 (人)	国保加入率	国保被保険者 平均年齢(歳)	出生率	死亡率
浜中町	平成26 年度	6,282	27.4%	3,004	47.8%	45.3	7.3%	11.9%
	平成27 年度	6,194	28.3%	2,935	47.4%	45.6	8.2%	12.9%
	平成28 年度	6,101	29.0%	2,815	46.1%	46.0	8.0%	14.1%
道	平成26 年度	5,431,658	27.9%	902,766	16.6%	51.7	6.8%	11.1%
	平成27 年度	5,401,210	28.8%	1,382,094	25.6%	52.1	6.8%	11.3%
	平成28 年度	5,370,807	29.6%	1,312,938	24.4%	52.6	6.6%	11.6%
同規模	平成26 年度	7,231	31.6%	2,223	30.7%	52.1	6.5%	14.4%
	平成27 年度	7,266	31.7%	2,149	29.6%	52.6	6.5%	14.4%
	平成28 年度	7,349	31.7%	2,069	28.2%	53.1	6.4%	14.4%
国	平成26 年度	128,226,483	25.6%	32,318,324	25.2%	50.3	7.9%	10.0%
	平成27 年度	128,066,211	26.3%	33,767,446	26.4%	50.4	8.0%	10.2%
	平成28 年度	127,907,086	26.8%	32,587,866	25.5%	50.7	7.8%	10.3%

出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

道・国の人口総数、高齢化率、出生率、死亡率は下記を出典元とする

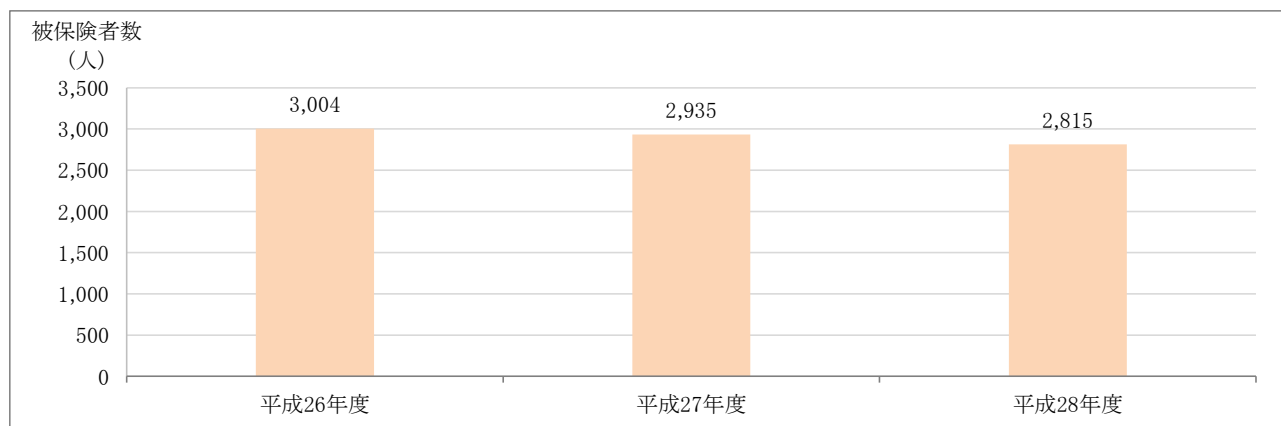
<https://www.e-stat.go.jp/>「e-Stat 政府統計の総合窓口」

平成27年～平成29年1月1日住民基本台帳人口・世帯数、(前年1月1日から同年12月31日まで)人口動態(都道府県別)(総計)

平成27年～平成29年1月1日住民基本台帳年齢階級別人口(市区町村別)(総計)

同規模欄は国保データベース(KDB)システムを出典元とする。

年度別 被保険者数



出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

(2) 医療費等の状況

本町の平成28年度における、医療基礎情報を以下に示す。

医療基礎情報(平成28年度)

医療項目	浜中町	道	同規模	国
千人当たり				
病院数	0.0	0.4	0.3	0.3
病床数(病院のみ)	0.0	73.6	31.4	46.8
診療所数	1.1	2.6	2.2	3.0
医師数	0.7	9.9	3.2	9.2
外来患者数	520.5	646.1	660.2	668.1
入院患者数	18.8	22.9	22.7	18.2
受診率	539.3	668.9	683.0	686.3
一件当たり医療費(円)	41,300	41,530	38,780	35,330
一般(円)	41,220	41,400	38,790	35,270
退職(円)	49,420	47,000	38,510	37,860
外来				
外来費用の割合	52.8%	55.2%	56.6%	60.1%
外来受診率	520.5	646.1	660.2	668.1
一件当たり医療費(円)	22,590	23,750	22,690	21,820
一人当たり医療費(円)	11,760	15,340	14,980	14,580
一日当たり医療費(円)	16,950	16,160	15,270	13,910
一件当たり受診回数	1.3	1.5	1.5	1.6
入院				
入院費用の割合	47.2%	44.8%	43.4%	39.9%
入院率	18.8	22.9	22.7	18.2
一件当たり医療費(円)	560,800	543,760	506,920	531,780
一人当たり医療費(円)	10,520	12,440	11,510	9,670
一日当たり医療費(円)	42,860	34,460	31,030	34,030
一件当たり在院日数	13.1	15.8	16.3	15.6

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

(3) 特定健康診査受診状況及び特定保健指導実施状況

① 特定健康診査

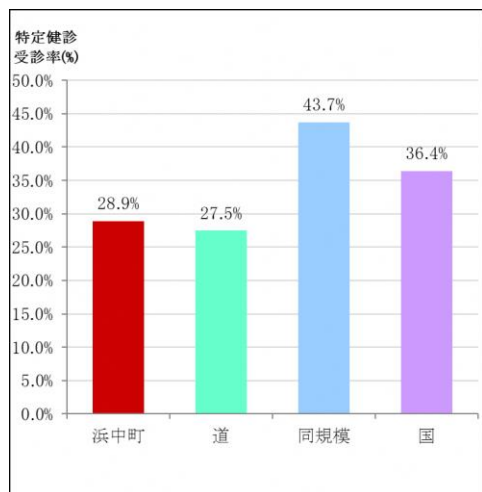
本町の平成28年度における、40歳から74歳の特定健康診査の受診率を以下に示す。

特定健康診査受診率(平成28年度)

	特定健診受診率
浜中町	28.9%
道	27.5%
同規模	43.7%
国	36.4%

出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

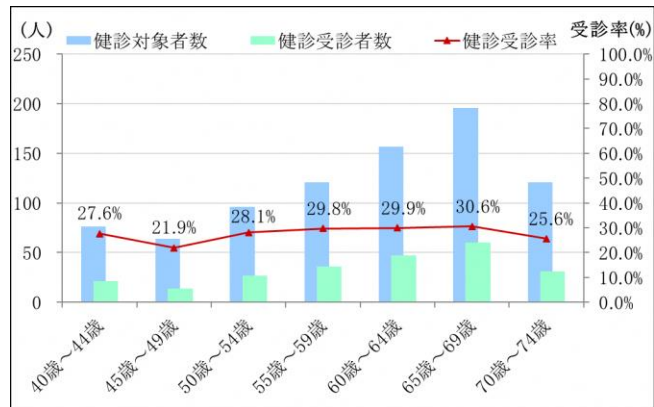
特定健康診査受診率(平成28年度)



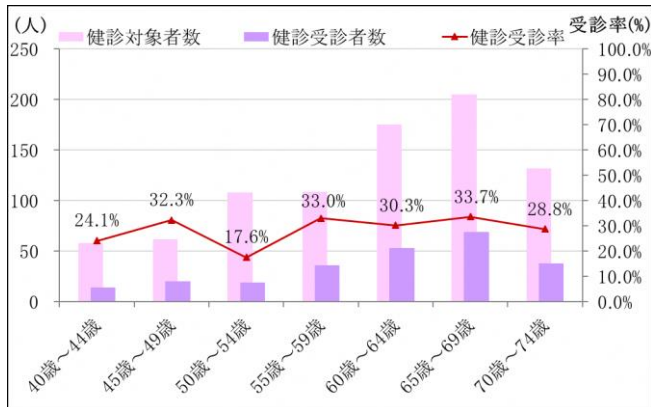
出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

男女別・年齢階層別特定健康診査受診率をみると、男女ともに年代が高いほど受診率が高い傾向がある。

(男性) 年齢別特定健康診査受診率(平成28年度)



(女性) 年齢別特定健康診査受診率(平成28年度)



出典: 国保データベース (KDB) システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

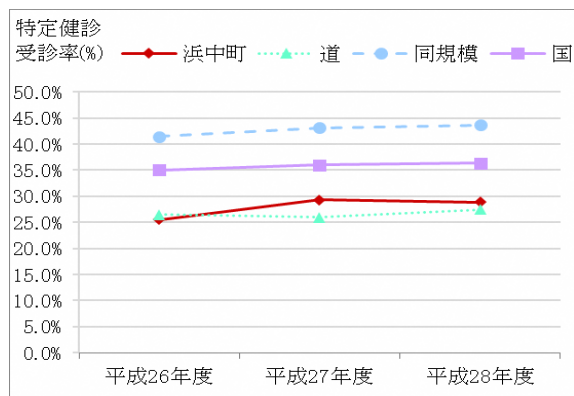
本町の平成26年度から平成28年度における、40歳から74歳の特定健康診査受診率を年度別に示す。平成28年度の特定健康診査受診率28.9%は平成26年度25.5%より3.4ポイント上昇している。

年度別 特定健康診査受診率

	特定健診受診率		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度
浜中町	25.5%	29.3%	28.9%
道	26.5%	26.0%	27.5%
同規模	41.5%	43.1%	43.7%
国	35.0%	36.0%	36.4%

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

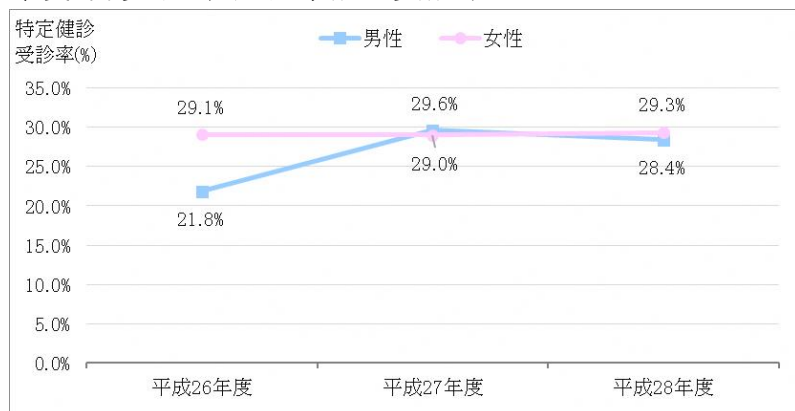
年度別 特定健康診査受診率



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

男女別の特定健康診査の受診率をみると、男性の平成28年度受診率28.4%は平成26年度21.8%より6.6ポイント上昇し、女性の平成28年度受診率29.3%は平成26年度29.1%より0.2ポイント上昇している。

年度・男女別 特定健康診査受診率



出典:国保データベース(KDB)システム「健診・医療・介護データからみる地域の健康課題」

②特定保健指導

本町の平成28年度における、特定保健指導の実施状況を以下に示す。

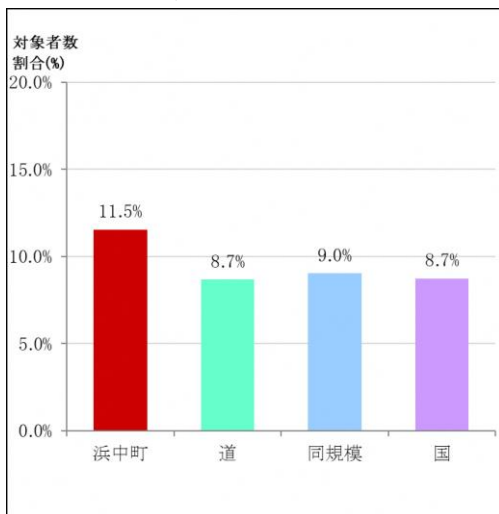
特定保健指導実施状況(平成28年度)

	動機付け支援 対象者数割合	積極的支援 対象者数割合	支援対象者数割合	特定保健指導 実施率
浜中町	11.5%	6.4%	17.9%	32.9%
道	8.7%	3.2%	11.9%	23.9%
同規模	9.0%	3.8%	12.8%	41.1%
国	8.7%	3.2%	12.0%	21.1%

動機付け支援対象者数割合・積極的支援対象者数割合・支援対象者数割合…特定健康診査を受診した人に対する割合。

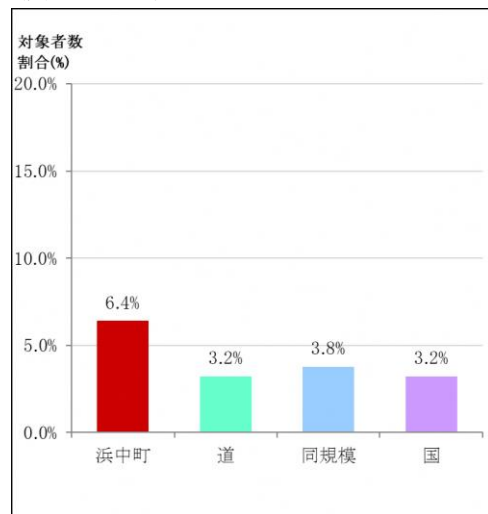
出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

動機付け支援対象者数割合(平成28年度)



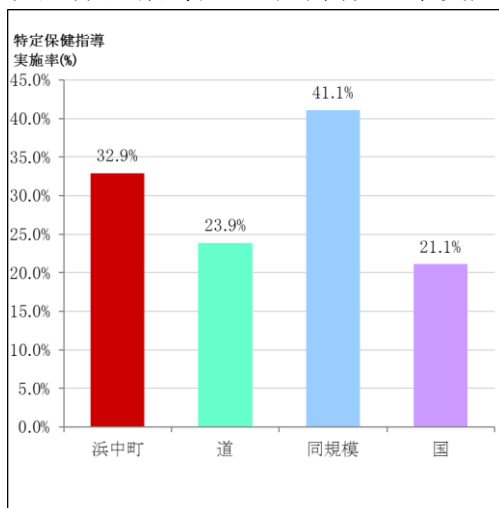
出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

積極的支援対象者数割合(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

特定保健指導実施率(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

本町の平成26年度から平成28年度における、特定保健指導の実施状況を年度別に示す。
平成28年度の特定保健指導実施率32.9%は平成26年度28.4%より4.5ポイント上昇している。

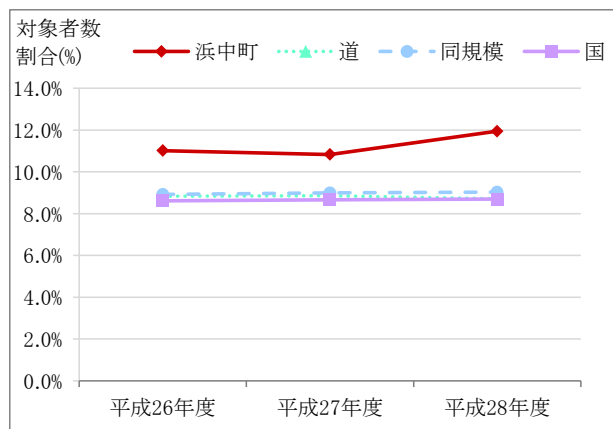
年度別 特定保健指導実施状況

	動機付け支援対象者数割合			積極的支援対象者数割合			支援対象者数割合			特定保健指導実施率		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
浜中町	11.0%	10.8%	11.5%	3.5%	6.8%	6.4%	14.5%	17.6%	17.9%	28.4%	24.2%	32.9%
道	8.8%	8.9%	8.7%	3.6%	3.4%	3.2%	12.4%	12.3%	11.9%	20.7%	22.3%	23.9%
同規模	8.9%	9.0%	9.0%	4.1%	3.9%	3.8%	13.0%	12.9%	12.8%	38.8%	39.3%	41.1%
国	8.6%	8.7%	8.7%	3.4%	3.3%	3.2%	12.0%	12.0%	12.0%	19.9%	20.2%	21.1%

動機付け支援対象者数割合・積極的支援対象者数割合・支援対象者数割合…特定健康診査を受診した人に対する割合。

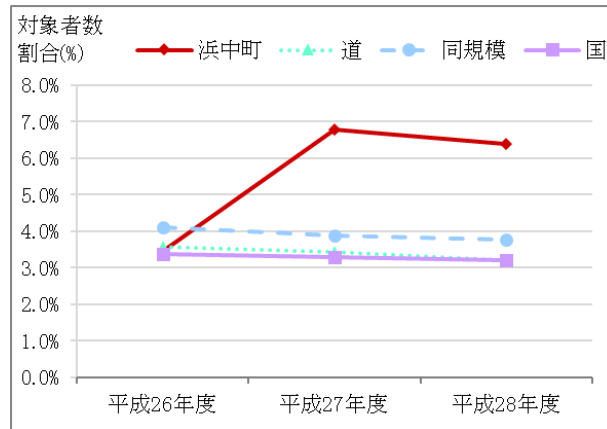
出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

年度別 動機付け支援対象者数割合



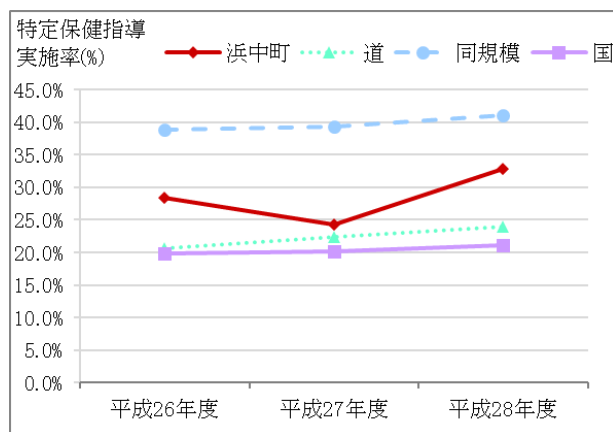
出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

年度別 積極的支援対象者数割合



出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

年度別 特定保健指導実施率



出典: 国保データベース (KDB) システム「地域の全体像の把握」

(4) 介護保険の状況

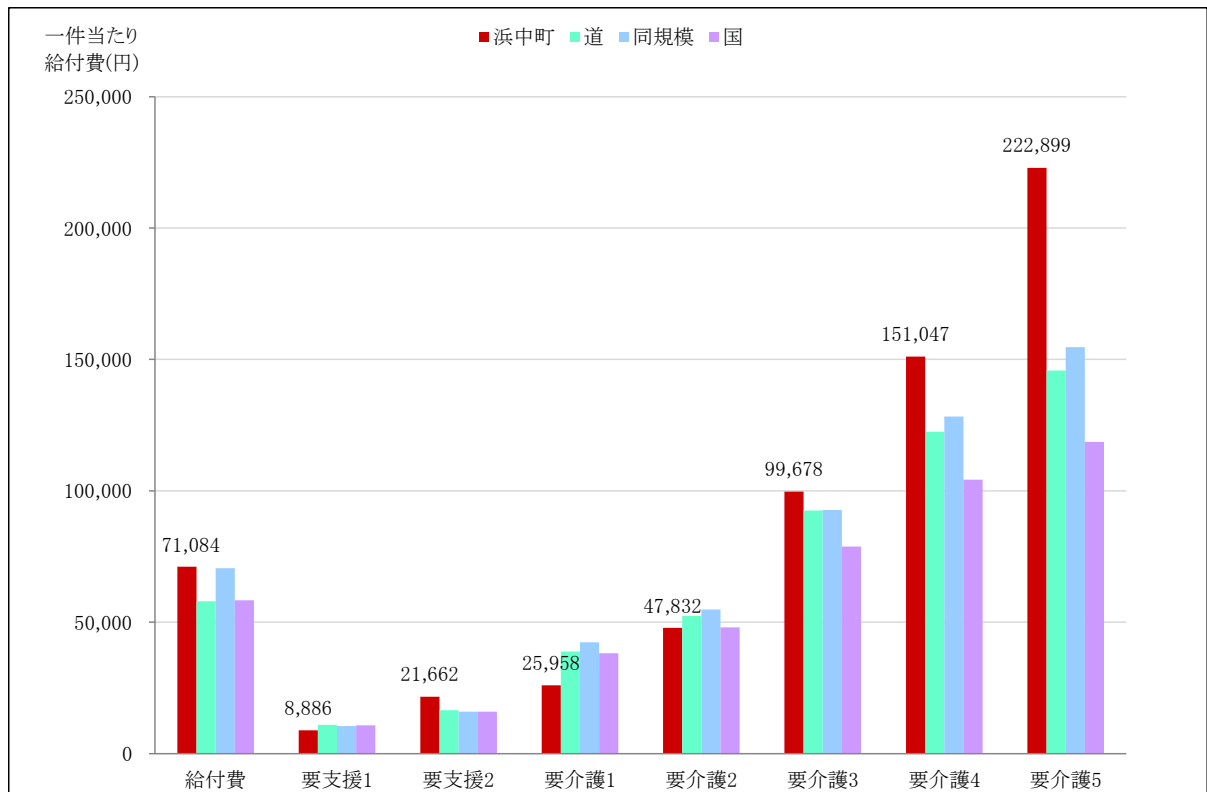
本町の平成28年度における、認定率及び給付費等の状況を以下に示す。

認定率及び給付費等の状況(平成28年度)

区分	浜中町	道	同規模	国
認定率	15.8%	23.0%	20.1%	21.2%
認定者数(人)	264	323,080	117,076	6,037,083
第1号(65歳以上)	259	315,539	114,751	5,885,270
第2号(40～64歳)	5	7,541	2,325	151,813
一件当たり給付費(円)				
給付費	71,084	57,970	70,589	58,284
要支援1	8,886	10,971	10,429	10,735
要支援2	21,662	16,506	15,986	15,996
要介護1	25,958	38,880	42,314	38,163
要介護2	47,832	52,466	54,787	48,013
要介護3	99,678	92,466	92,739	78,693
要介護4	151,047	122,467	128,271	104,104
要介護5	222,899	145,689	154,495	118,361

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

一件当たり要介護度別給付費(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

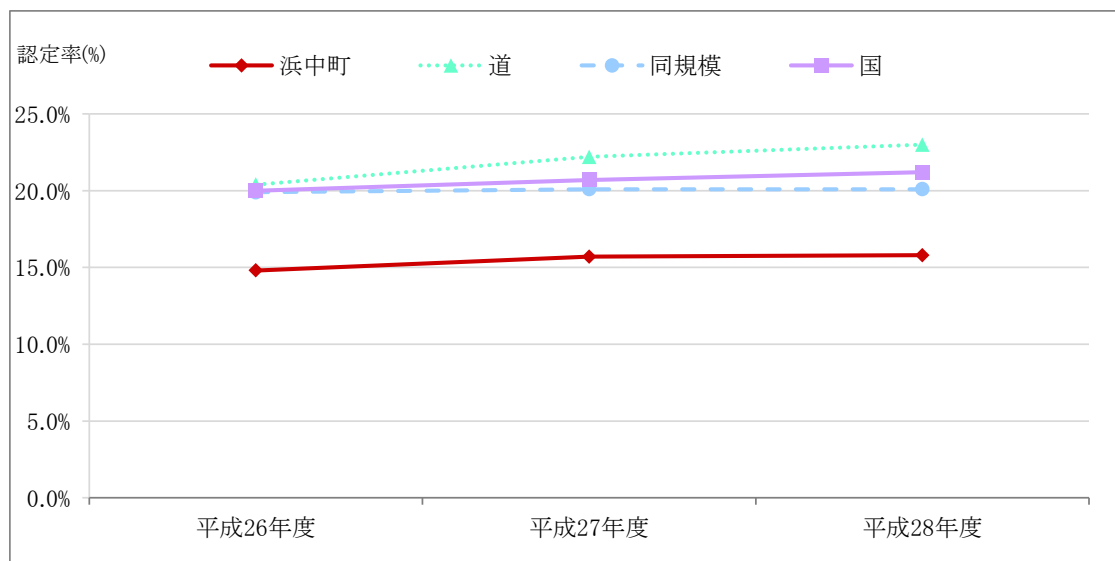
平成26年度から平成28年度における、認定率及び認定者数を年度別に示す。平成28年度認定率15.8%は平成26年度14.8%より1.0ポイント上昇しており、平成28年度の第1号認定者数259人は平成26年度270人より11人減少している。

年度別 認定率及び認定者数

区分		認定率	認定者数(人)	
			第1号 (65歳以上)	第2号 (40歳～64歳)
浜中町	平成26年度	14.8%	270	4
	平成27年度	15.7%	266	3
	平成28年度	15.8%	259	5
道	平成26年度	20.4%	182,098	4,723
	平成27年度	22.2%	285,208	7,067
	平成28年度	23.0%	315,539	7,541
同規模	平成26年度	19.9%	113,409	2,512
	平成27年度	20.1%	114,045	2,367
	平成28年度	20.1%	114,751	2,325
国	平成26年度	20.0%	5,178,997	145,883
	平成27年度	20.7%	5,602,383	149,599
	平成28年度	21.2%	5,885,270	151,813

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 認定率



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

本町の平成28年度における、認定者の疾病別有病率を以下に示す。疾病別の有病者数の延人数は794人となり、認定者は平均3.0疾病を有していることがわかる。

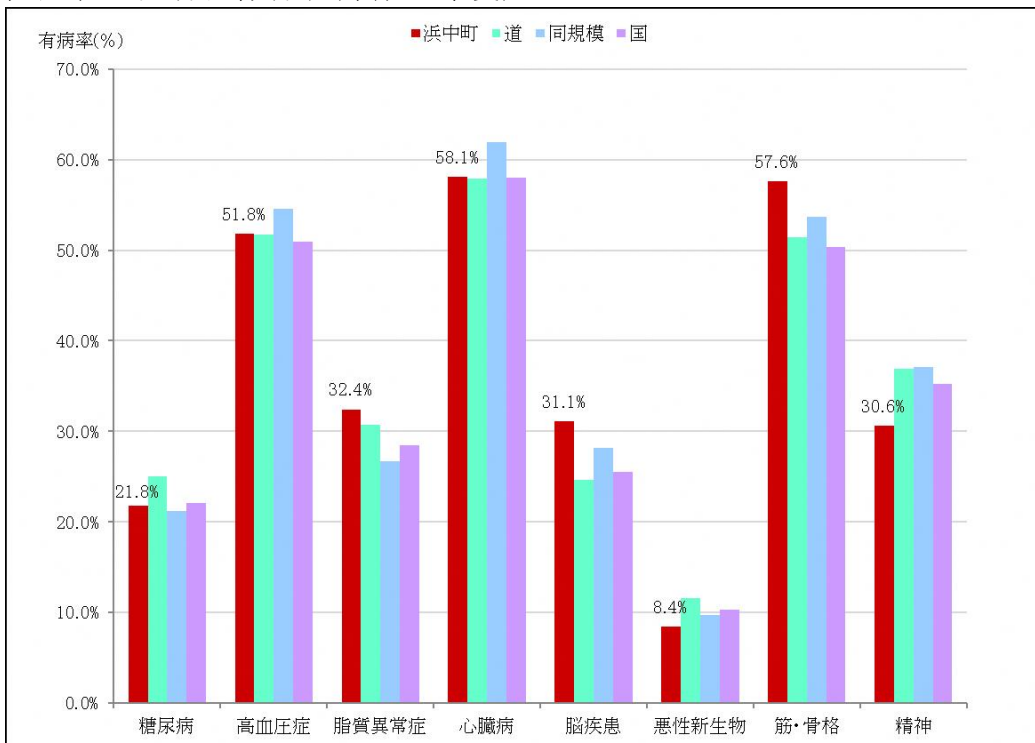
認定者の疾病別有病状況(平成28年度)

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

区分	浜中町	順位	道	順位	同規模	順位	国	順位
認定者数(人)	264		323,080		117,076		6,037,083	
糖尿病	実人数(人)	55	82,322		25,230		1,350,152	
	有病率	21.8%	25.0%		21.2%		22.1%	
高血圧症	実人数(人)	140	169,738		64,783		3,101,200	
	有病率	51.8%	51.7%		54.6%		50.9%	
脂質異常症	実人数(人)	89	100,963		31,854		1,741,866	
	有病率	32.4%	30.7%		26.7%		28.4%	
心臓病	実人数(人)	158	189,496		73,398		3,529,682	
	有病率	58.1%	57.9%		61.9%		58.0%	
脳疾患	実人数(人)	84	79,966		33,188		1,538,683	
	有病率	31.1%	24.6%		28.2%		25.5%	
悪性新生物	実人数(人)	30	38,646		11,653		631,950	
	有病率	8.4%	11.6%		9.7%		10.3%	
筋・骨格	実人数(人)	163	168,752		63,731		3,067,196	
	有病率	57.6%	51.4%		53.7%		50.3%	
精神	実人数(人)	75	121,460		44,036		2,154,214	
	有病率	30.6%	36.9%		37.1%		35.2%	

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

認定者の疾病別有病率(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

本町の平成26年度から平成28年度における、認定者の疾病別有病率を年度別に示す。平成28年度の認定者が有している平均疾病数3.0疾病は平成26年度2.9疾病より増加している。

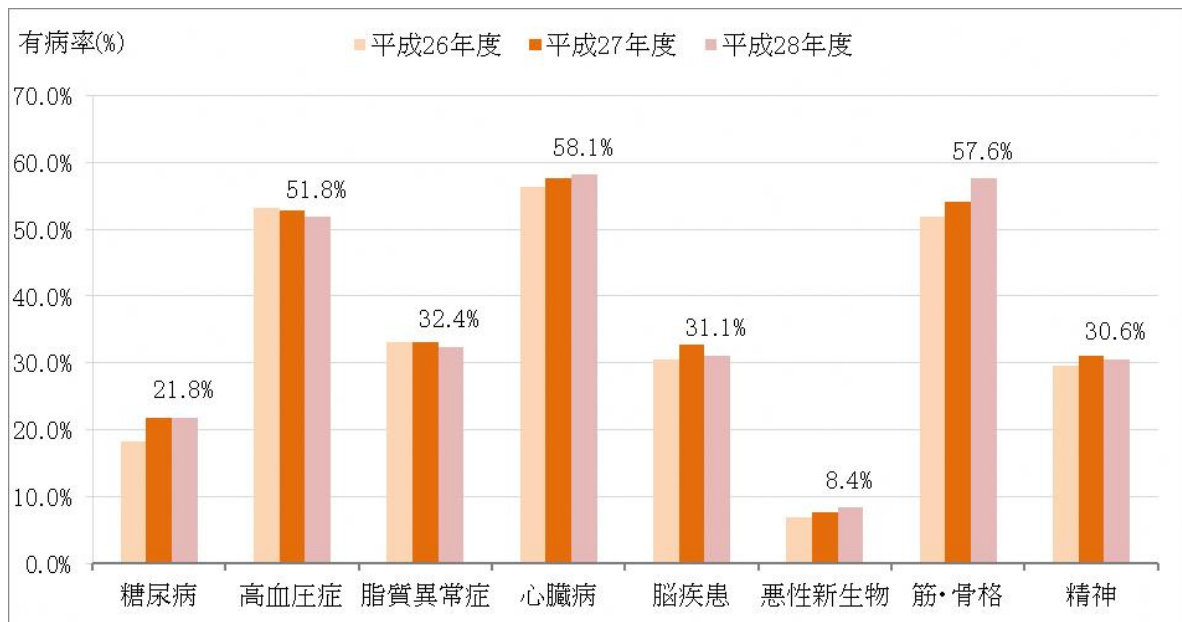
年度別 認定者の疾病別有病状況

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

区分	浜中町						道			同規模			国			
	平成26年度	順位	平成27年度	順位	平成28年度	順位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
認定者数(人)	274		269		264		186,821	292,275	323,080	115,921	116,412	117,076	5,324,880	5,751,982	6,037,083	
糖尿病	実人数(人)	61	7	56	7	55	7	47,283	73,850	82,322	23,841	24,752	25,230	1,089,285	1,241,024	1,350,152
	有病率(%)	18.3%		21.8%		21.8%		24.9%	25.0%	25.0%	20.1%	20.8%	21.2%	20.3%	21.4%	22.1%
高血圧症	実人数(人)	146	3	146	3	140	3	99,232	152,957	169,738	62,248	64,134	64,783	2,551,660	2,865,466	3,101,200
	有病率(%)	53.2%		52.7%		51.8%		52.7%	51.8%	51.7%	52.4%	53.9%	54.6%	47.9%	49.7%	50.9%
脂質異常症	実人数(人)	89	4	94	4	89	4	56,146	90,596	100,963	29,779	31,148	31,854	1,386,541	1,586,963	1,741,866
	有病率(%)	33.2%		33.1%		32.4%		29.3%	30.4%	30.7%	24.9%	26.0%	26.7%	25.7%	27.3%	28.4%
心臓病	実人数(人)	157	1	162	1	158	2	111,016	171,216	189,496	70,635	72,610	73,398	2,914,608	3,261,576	3,529,682
	有病率(%)	56.4%		57.7%		58.1%		59.1%	58.2%	57.9%	59.5%	61.2%	61.9%	54.8%	56.7%	58.0%
脳疾患	実人数(人)	85	5	91	5	84	5	48,898	73,652	79,966	33,092	33,578	33,188	1,324,669	1,455,985	1,538,683
	有病率(%)	30.5%		32.7%		31.1%		26.3%	25.2%	24.6%	28.2%	28.5%	28.2%	25.2%	25.4%	25.5%
悪性新生物	実人数(人)	20	8	18	8	30	8	20,352	34,131	38,646	10,614	11,339	11,653	493,808	569,967	631,950
	有病率(%)	6.9%		7.6%		8.4%		10.7%	11.4%	11.6%	8.8%	9.3%	9.7%	9.2%	9.8%	10.3%
筋・骨格	実人数(人)	149	2	156	2	163	1	96,634	151,112	168,752	60,835	62,784	63,731	2,505,146	2,813,795	3,067,196
	有病率(%)	51.8%		54.0%		57.6%		51.2%	51.2%	51.4%	51.0%	53.0%	53.7%	47.1%	48.9%	50.3%
精神	実人数(人)	78	6	88	6	75	6	68,326	108,629	121,460	41,400	43,277	44,036	1,720,172	1,963,213	2,154,214
	有病率(%)	29.6%		31.1%		30.6%		36.2%	36.8%	36.9%	34.6%	36.1%	37.1%	32.2%	33.8%	35.2%

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 認定者の疾病別有病率



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

(5) 主たる死因の状況

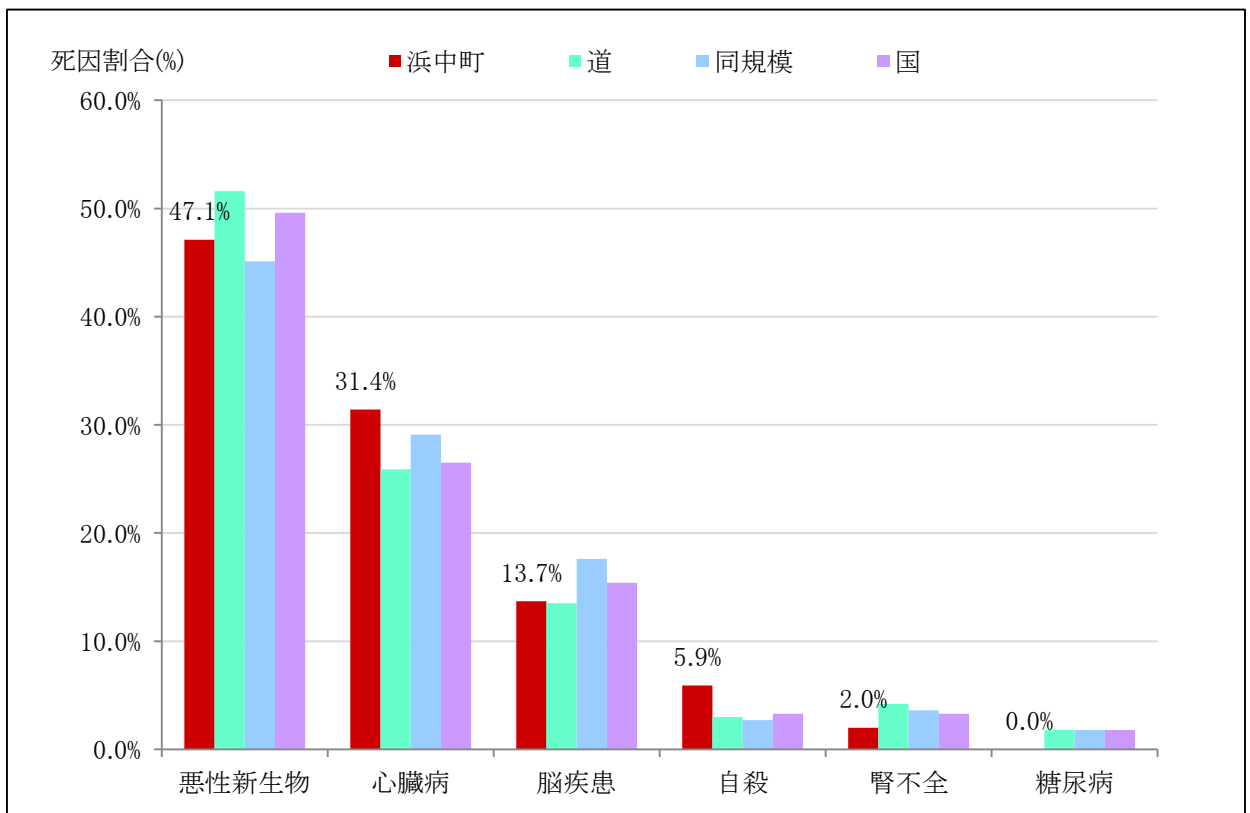
本町の平成28年度における主たる死因の状況を以下に示す。

主たる死因の状況(平成28年度)

疾病項目 (割合 %)	浜中町	道	同規模	国
悪性新生物	47.1%	51.6%	45.1%	49.6%
心臓病	31.4%	25.9%	29.1%	26.5%
脳疾患	13.7%	13.5%	17.6%	15.4%
自殺	5.9%	3.0%	2.7%	3.3%
腎不全	2.0%	4.2%	3.6%	3.3%
糖尿病	0.0%	1.8%	1.8%	1.8%

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

主たる死因の割合(平成28年度)



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

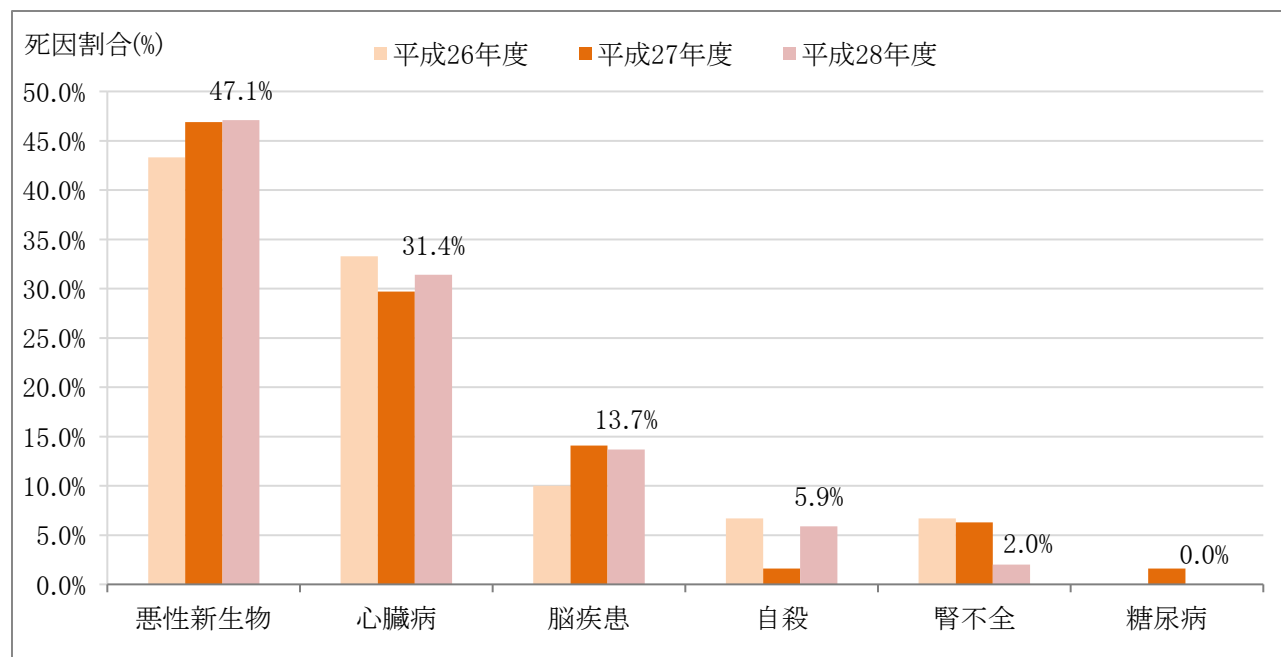
本町の平成26年度から平成28年度における主たる死因の割合を年度別に示す。平成28年度を平成26年度と比較すると、悪性新生物を死因とする割合47.1%は平成26年度43.3%より3.8%上昇しており、心臓病を死因とする割合31.4%は平成26年度33.3%より1.9%減少している。また、脳疾患を死因とする割合13.7%は平成26年度10.0%より3.7%上昇している。

年度別 主たる死因の状況

疾病項目 (割合 %)	浜中町			道			同規模			国		
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
悪性新生物	43.3%	46.9%	47.1%	50.3%	50.8%	51.6%	44.3%	44.3%	45.1%	48.3%	49.0%	49.6%
心臓病	33.3%	29.7%	31.4%	26.2%	26.1%	25.9%	28.6%	29.2%	29.1%	26.6%	26.4%	26.5%
脳疾患	10.0%	14.1%	13.7%	14.1%	13.7%	13.5%	18.4%	17.9%	17.6%	16.3%	15.9%	15.4%
自殺	6.7%	1.6%	5.9%	3.3%	3.1%	3.0%	3.1%	2.8%	2.7%	3.5%	3.5%	3.3%
腎不全	6.7%	6.3%	2.0%	4.2%	4.4%	4.2%	3.7%	3.9%	3.6%	3.4%	3.4%	3.3%
糖尿病	0.0%	1.6%	0.0%	1.9%	1.9%	1.8%	2.0%	1.9%	1.8%	1.9%	1.9%	1.8%

出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

年度別 主たる死因の割合



出典:国保データベース(KDB)システム「地域の全体像の把握」

2. 過去の取り組みの考察

(1) 過去の各事業達成状況

過去に実施した各事業についての達成状況を以下に示す。

なお、評価は、5:目標達成、4:改善している、3:横ばい、2:悪化している、1:評価できない、の5段階で評価する。

実施年度	事業名	事業目的	事業概要
平成27年度から平成29年度	特定健康診査事業	メタボリックシンドロームの早期発見による生活習慣病予防	40歳から74歳の人を対象とし特定健康診査を実施する。
平成27年度から平成29年度	特定保健指導事業	生活習慣病該当者及び予備群の減少	特定健康診査の結果から特定保健指導対象者を特定し、生活習慣や検査値が改善されるように、専門職による支援を面接や電話、e-mail等で行う。
平成29年度	糖尿病性腎症重症化予防事業	糖尿病性腎症患者の病期進行阻止	特定健康診査の検査値とレセプトデータから対象者を特定し、正しい生活習慣を身に付けられるように専門職より対象者に6カ月間の面談指導と電話指導を行う。
平成28年度から平成29年度	健診異常値放置者受診勧奨事業	健診異常値を放置している対象者の医療機関受診	特定健康診査の受診後、その結果に異常値があるにも関わらず医療機関受診が確認できない対象者に通知書を送付することで受診勧奨を行う。
平成27年度から平成29年度	ジェネリック医薬品差額通知事業	ジェネリック医薬品の普及率向上	レセプトデータから、ジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定する。通知書を対象者に送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。

5:目標達成
 4:改善している
 3:横ばい
 2:悪化している
 1:評価できない

実施内容	目標値(平成29年度末)	達成状況(平成28年度時点)	評価
対象者全員に受診券を発送した。その後、対象者が特定健康診査を受診したかどうかを確認した。	受診率 60.0%	受診率 28.9%	2
指導対象者に対して適切な保健指導を行った。健康診査データより検査値の推移を確認した。	特定保健指導の終了者の割合 60.0%	特定保健指導の終了者の割合 32.9%	4
	特定保健指導対象者の減少率 25.0%	特定保健指導対象者の減少率 14.9%	2
指導対象者に対して適切な保健指導を行った後、健康診査、レセプトデータより検査値の推移、定期的な通院の有無等を確認する。	指導実施者数 5人以上	—	1
	指導完了者数 4人以上	—	1
	指導完了率 80.0%以上	—	1
健診異常値放置者に医療機関受診勧奨通知を作成し、郵送した。通知後に医療機関受診があるか確認。	再受診勧奨通知数の割合 100%	再受診勧奨通知数の割合 100%	5
	医療機関受診率70.0%	医療機関受診率64.2%	2
年4回通知を行った。対象者特定方法や効果検証方法、実施後の効果を考慮し、継続を検討した。	対象者への通知率 100%	対象者への通知率 100%	5

(2) 過去の各事業実施内容

過去に実施した事業の詳細は以下の通りである。

①特定健康診査事業

【実施年度】平成27年度から平成29年度

【事業目的】メタボリックシンドロームの早期発見による生活習慣病予防

【事業概要】40歳から74歳の人を対象とし特定健康診査を実施する。

【実施内容】対象者全員に受診券を発送した。その後、対象者が特定健康診査を受診したかどうかを確認した。

【目標値】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
特定健診受診率(%)	45.0%	55.0%	60.0%

【達成状況】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
特定健診受診率(%)	29.3%	28.9%	—

【考察】平成28年度の特定健診受診率は28.9%であり、平成27年度の29.3%から0.4ポイント減少している。結果に基づき目標値等の見直しを行い、更なる取り組みを検討する。

②特定保健指導事業

【実施年度】平成27年度から平成29年度

【事業目的】生活習慣病該当者及び予備群の減少

【事業概要】特定健康診査の結果から特定保健指導対象者を特定し、生活習慣や検査値が改善されるように、専門職による支援を面談や電話、e-mail等で行う。

【実施内容】指導対象者に対して適切な保健指導を行った。健康診査データより検査値の推移を確認した。

【目標値】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
特定保健指導の終了者の割合(%)	55.0%	57.0%	60.0%
特定保健指導対象者の減少率(%)	—	—	25.0%

【達成状況】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
特定保健指導の終了者の割合(%)	24.2%	32.9%	—
特定保健指導対象者の減少率(%)	—	—	—

【考察】平成28年度の特定保健指導の終了者の割合は32.9%であり、平成27年度の24.2%から8.7ポイント増加している。結果に基づき目標値等の見直しを行い、更なる取り組みを検討する。

③糖尿病性腎症重症化予防事業

【実施年度】平成29年度

【事業目的】糖尿病性腎症患者の病期進行阻止

【事業概要】特定健康診査の検査値とレセプトデータから対象者を特定し、正しい生活習慣を身に付けられるように専門職より対象者に6カ月間の面談指導と電話指導を行う。

【実施内容】指導対象者に対して適切な保健指導を行った後、健康診査、レセプトデータより検査値の推移、定期的な通院の有無等を確認する。

【目標値】

	平成29年度
指導実施者数(人)	5人以上
指導完了者数(人)	4人以上
指導完了率(%)	80.0%以上
検査数値改善率(%)	50.0%以上

【達成状況】

	平成29年度
指導実施者数(人)	—
指導完了者数(人)	—
指導完了率(%)	—
検査数値改善率(%)	—

④健診異常値放置者受診勧奨事業

【実施年度】 平成28年度から平成29年度

【事業目的】 健診異常値を放置している対象者の医療機関受診

【事業概要】 特定健康診査の受診後、その結果に異常値があるにも関わらず医療機関受診が確認できない対象者に通知書を送付することで受診勧奨を行う。

【実施内容】 健診異常値放置者に医療機関受診勧奨通知を作成し、郵送した。通知後に医療機関受診があるか確認した。

【目標値】

	平成28年度	平成29年度
再受診勧奨通知数の割合 (%)	100%	100%
医療機関受診率 (%)	70.0%	70.0%

【達成状況】

	平成28年度	平成29年度
再受診勧奨通知数の割合 (%)	100%	—
医療機関受診率 (%)	64.2%	—

【考察】 平成28年度の医療機関受診率は64.2%だった。結果に基づき目標値等の見直しを行い、更なる取り組みを検討する。

⑤ジェネリック医薬品差額通知事業

【実施年度】平成27年度から平成29年度

【事業目的】ジェネリック医薬品の普及率向上

【事業概要】レセプトデータから、ジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が100円以上の対象者を特定する。通知書を対象者に送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。

【実施内容】年4回通知した。対象者特定方法や効果検証方法、実施後の効果を考慮し、継続を検討した。

【目標値】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
対象者への通知率(%)	100%	100%	100%

【達成状況】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
対象者への通知率(%)	100%	100%	—

3. 医療情報分析結果

(1) 基礎統計

当医療費統計は、浜中町国民健康保険における、平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)の入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプトを対象とし分析する。被保険者数、レセプト件数、医療費、患者数等は以下の通りである。被保険者数は平均2,817人、レセプト件数は平均2,740件、患者数は平均1,158人となった。また、患者一人当たりの医療費は平均55,465円となった。

基礎統計

		平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月	
A	被保険者数(人)	2,959	2,881	2,865	2,831	2,834	2,826	2,827	
B	レセプト件数(件)	入院外	1,605	1,624	1,579	1,522	1,495	1,358	1,498
		入院	63	49	54	42	43	47	53
		調剤	1,277	1,261	1,252	1,251	1,212	1,108	1,221
		合計	2,945	2,934	2,885	2,815	2,750	2,513	2,772
C	医療費(円) ※	71,418,550	59,716,710	61,509,190	50,751,170	54,567,620	53,941,550	69,848,570	
D	患者数(人) ※	1,255	1,217	1,237	1,174	1,151	1,064	1,166	
C/A	被保険者一人当たりの平均医療費(円)	24,136	20,728	21,469	17,927	19,255	19,088	24,708	
C/B	レセプト一件当たりの平均医療費(円)	24,251	20,353	21,320	18,029	19,843	21,465	25,198	
C/D	患者一人当たりの平均医療費(円)	56,907	49,069	49,724	43,229	47,409	50,697	59,904	
D/A	有病率(%)	42.4%	42.2%	43.2%	41.5%	40.6%	37.7%	41.2%	

		平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月	合計	平均	
A	被保険者数(人)	2,779	2,760	2,739	2,724	2,784		2,817	
B	レセプト件数(件)	入院外	1,462	1,475	1,335	1,370	1,520	17,843	1,487
		入院	57	52	63	61	59	643	54
		調剤	1,182	1,207	1,089	1,106	1,222	14,388	1,199
		合計	2,701	2,734	2,487	2,537	2,801	32,874	2,740
C	医療費(円) ※	71,066,390	66,629,960	69,904,730	67,346,490	74,208,520	770,909,450	64,242,454	
D	患者数(人) ※	1,148	1,164	1,077	1,069	1,177	13,899	1,158	
C/A	被保険者一人当たりの平均医療費(円)	25,573	24,141	25,522	24,723	26,655		22,802	
C/B	レセプト一件当たりの平均医療費(円)	26,311	24,371	28,108	26,546	26,494		23,450	
C/D	患者一人当たりの平均医療費(円)	61,905	57,242	64,907	63,000	63,049		55,465	
B/A	受診率(%)	97.2%	99.1%	90.8%	93.1%	100.6%		97.2%	
D/A	有病率(%)	41.3%	42.2%	39.3%	39.2%	42.3%		41.1%	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている、保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

※患者数…医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトの人数を集計。同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は、一人として集計。

(2) 高額レセプトの件数及び医療費

① 高額レセプトの件数及び割合

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトのうち、診療点数が5万点以上のものを高額レセプトとし、以下の通り集計した。高額レセプトは258件発生しており、レセプト件数全体の0.8%を占める。高額レセプトの医療費は2億7,833万円となり、医療費全体の36.1%を占める。

高額レセプトの件数及び医療費

		平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月	平成28年10月
A	レセプト件数(件)	2,945	2,934	2,885	2,815	2,750	2,513	2,772
B	高額レセプト件数(件)	23	15	14	12	16	19	20
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	0.8%	0.5%	0.5%	0.4%	0.6%	0.8%	0.7%
C	医療費(円) ※	71,418,550	59,716,710	61,509,190	50,751,170	54,567,620	53,941,550	69,848,570
D	高額レセプトの医療費(円) ※	25,757,160	15,578,160	17,062,710	11,442,920	15,523,100	17,838,370	28,515,660
E	その他レセプトの医療費(円) ※	45,661,390	44,138,550	44,446,480	39,308,250	39,044,520	36,103,180	41,332,910
D/C	総医療費に占める高額レセプトの割合(%)	36.1%	26.1%	27.7%	22.5%	28.4%	33.1%	40.8%

		平成28年11月	平成28年12月	平成29年1月	平成29年2月	平成29年3月	合計	平均
A	レセプト件数(件)	2,701	2,734	2,487	2,537	2,801	32,874	2,740
B	高額レセプト件数(件)	30	23	30	31	25	258	22
B/A	総レセプト件数に占める高額レセプトの割合(%)	1.1%	0.8%	1.2%	1.2%	0.9%		0.8%
C	医療費(円) ※	71,066,390	66,629,960	69,904,730	67,346,490	74,208,520	770,909,450	64,242,454
D	高額レセプトの医療費(円) ※	29,692,800	26,047,440	30,886,950	30,010,850	29,974,900	278,331,020	23,194,252
E	その他レセプトの医療費(円) ※	41,373,590	40,582,520	39,017,780	37,335,640	44,233,620	492,578,430	41,048,203
D/C	総医療費に占める高額レセプトの割合(%)	41.8%	39.1%	44.2%	44.6%	40.4%		36.1%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※医療費…データ化範囲(分析対象)全体での医療費を算出。

※高額レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプトの医療費。

※その他レセプトの医療費…高額(5万点以上)レセプト以外の医療費。

②高額レセプト発生患者の疾病傾向

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトのうち、高額レセプト発生患者の疾病傾向を示す。高額レセプト発生患者の分析対象期間の全レセプトを医療費分解後、最も医療費がかかっている疾病を主要傷病名と定義し、対象者の全医療費を集計した。患者一人当たりの医療費が高額な疾病は、「白血病」「悪性リンパ腫」「脳梗塞」等となった。

高額レセプト発生患者の疾病傾向(患者一人当たりの医療費順)

順位	中分類	中分類名	主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者一人当たりの 医療費(円) ※
1	0209	白血病	急性骨髄性白血病, 慢性骨髄性白血病	9,169,407
2	0208	悪性リンパ腫	濾胞性リンパ腫・グレード1, 末梢性T細胞リンパ腫	9,138,177
3	0906	脳梗塞	脳梗塞	8,844,790
4	0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	肝細胞癌	6,782,135
5	0904	くも膜下出血	脳底動脈瘤破裂によるくも膜下出血	6,439,020
6	1011	その他の呼吸器系の疾患	慢性呼吸不全, 間質性肺炎	5,876,120
7	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	直腸癌	5,839,805
8	0105	ウイルス性肝炎	C型慢性肝炎	4,836,600
9	0202	結腸の悪性新生物<腫瘍>	S状結腸癌, 盲腸癌, 上行結腸癌	4,159,175
10	0205	気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	上葉小細胞肺癌, 下葉肺癌, 上葉肺腺癌	4,094,097
11	0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	血友病A	4,074,710
12	0908	その他の脳血管疾患	多発性脳動脈瘤	4,013,505
13	1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	肩関節拘縮, 大腿骨頭壊死, 皮膚筋炎	3,917,018
14	1402	腎不全	慢性腎不全, 急性腎前性腎不全	3,444,883
15	0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>	乳房上外側部乳癌, 乳癌・HER2過剰発現	3,103,993
16	0903	その他の心疾患	発作性心房細動, 心室頻拍, 発作性上室頻拍	2,846,257
17	0201	胃の悪性新生物<腫瘍>	噴門癌, 胃幽門部癌, 胃前庭部癌	2,830,608
18	0402	糖尿病	増殖性糖尿病性網膜症	2,673,310
19	1112	膵疾患	急性膵炎	2,557,390
20	1107	アルコール性肝疾患	アルコール性肝硬変	2,531,780

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病。

※患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計した。

※医療費…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトの医療費(高額レセプトに限らない)。

※患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費。

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)の疾病傾向を患者数順に示す。患者数が多い疾病は「その他の損傷及びその他の外因の影響」「骨折」「その他の悪性新生物<腫瘍>」である。

高額レセプト発生患者の疾病傾向(患者数順)

順位	中分類	中分類名	主要傷病名 ※ (上位3疾病まで記載)	患者数 (人) ※	医療費(円) ※			患者一人当たりの 医療費(円) ※
					入院	入院外	合計	
1	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	肩腱板断裂, 半月板損傷, 頸髄損傷	13	25,001,440	3,604,930	28,606,370	2,200,490
2	1901	骨折	足関節外果骨折, 踵骨骨折, 尺骨遠位端骨折	8	9,894,620	1,946,990	11,841,610	1,480,201
3	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	甲状腺乳頭癌, 転移性脳腫瘍, 前立腺癌	7	13,903,570	3,234,420	17,137,990	2,448,284
3	1302	関節症	変形性膝関節症, 一側性原発性膝関節症, 両側性原発性膝関節症	7	15,179,880	2,412,580	17,592,460	2,513,209
5	0903	その他の心疾患	発作性心房細動, 心室頻拍, 発作性上室頻拍	6	14,248,530	2,829,010	17,077,540	2,846,257
6	0201	胃の悪性新生物<腫瘍>	噴門癌, 胃幽門部癌, 胃前庭部癌	4	7,985,800	3,336,630	11,322,430	2,830,608
6	0202	結腸の悪性新生物<腫瘍>	S状結腸癌, 盲腸癌, 上行結腸癌	4	11,964,960	4,671,740	16,636,700	4,159,175
6	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	直腸癌	4	13,506,640	9,852,580	23,359,220	5,839,805
6	0704	その他の眼及び付属器の疾患	黄斑部浮腫, 網膜剥離, 血管新生緑内障	4	2,292,720	4,189,810	6,482,530	1,620,633
6	1303	脊椎障害(脊椎症を含む)	腰部脊柱管狭窄症	4	8,367,260	1,355,870	9,723,130	2,430,783
6	1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	肩関節拘縮, 大腿骨頭壊死, 皮膚筋炎	4	14,209,270	1,458,800	15,668,070	3,917,018

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※主要傷病名…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトを医療費分解後、患者毎に最も医療費が高額となった疾病。

※患者数…高額レセプト発生患者を主要傷病名で中分類ごとに集計した。

※医療費…高額レセプト発生患者の分析期間の全レセプトの医療費(高額レセプトに限らない)。

※患者一人当たりの医療費…高額レセプト発生患者の分析期間中の患者一人当たり医療費。

(3) 疾病別医療費

①大分類による疾病別医療費統計

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトより、疾病項目毎に医療費総計、レセプト件数、患者数を算出した。「新生物<腫瘍>」が医療費合計の20.6%、「循環器系の疾患」は医療費合計の15.2%と高い割合を占めている。

大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を

網掛け

表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者数 (人) ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	19,959,277	2.6%	12	3,135	9	820	6	24,341	17
II. 新生物<腫瘍>	158,229,915	20.6%	1	2,598	10	654	9	241,942	2
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	9,171,068	1.2%	15	1,042	15	260	14	35,273	14
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	59,723,020	7.8%	4	10,554	2	1,062	4	56,236	10
V. 精神及び行動の障害	19,675,641	2.6%	13	2,104	13	239	15	82,325	4
VI. 神経系の疾患	34,479,780	4.5%	9	4,681	6	527	12	65,427	8
VII. 眼及び付属器の疾患	27,231,745	3.5%	10	2,421	12	593	10	45,922	13
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	2,239,235	0.3%	17	545	17	165	16	13,571	19
IX. 循環器系の疾患	116,676,543	15.2%	2	10,842	1	983	5	118,694	3
X. 呼吸器系の疾患	59,153,408	7.7%	5	7,704	5	1,286	1	45,998	12
X I. 消化器系の疾患 ※	56,160,351	7.3%	6	9,872	3	1,200	2	46,800	11
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	21,922,971	2.9%	11	4,517	7	812	7	26,999	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	89,643,153	11.7%	3	9,570	4	1,125	3	79,683	6
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	37,138,961	4.8%	8	2,471	11	580	11	64,033	9
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	2,079,715	0.3%	18	91	20	27	20	77,026	7
X VI. 周産期に発生した病態 ※	3,062,153	0.4%	16	25	21	11	21	278,378	1
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	1,028,493	0.1%	19	121	19	33	19	31,166	15
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	11,768,680	1.5%	14	3,761	8	752	8	15,650	18
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	38,848,112	5.1%	7	1,859	14	487	13	79,770	5
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	566,810	0.1%	20	610	16	118	17	4,803	21
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%		0		0		0	
分類外	316,189	0.0%	21	186	18	60	18	5,270	20
合計	769,075,220			32,687		2,422		317,537	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

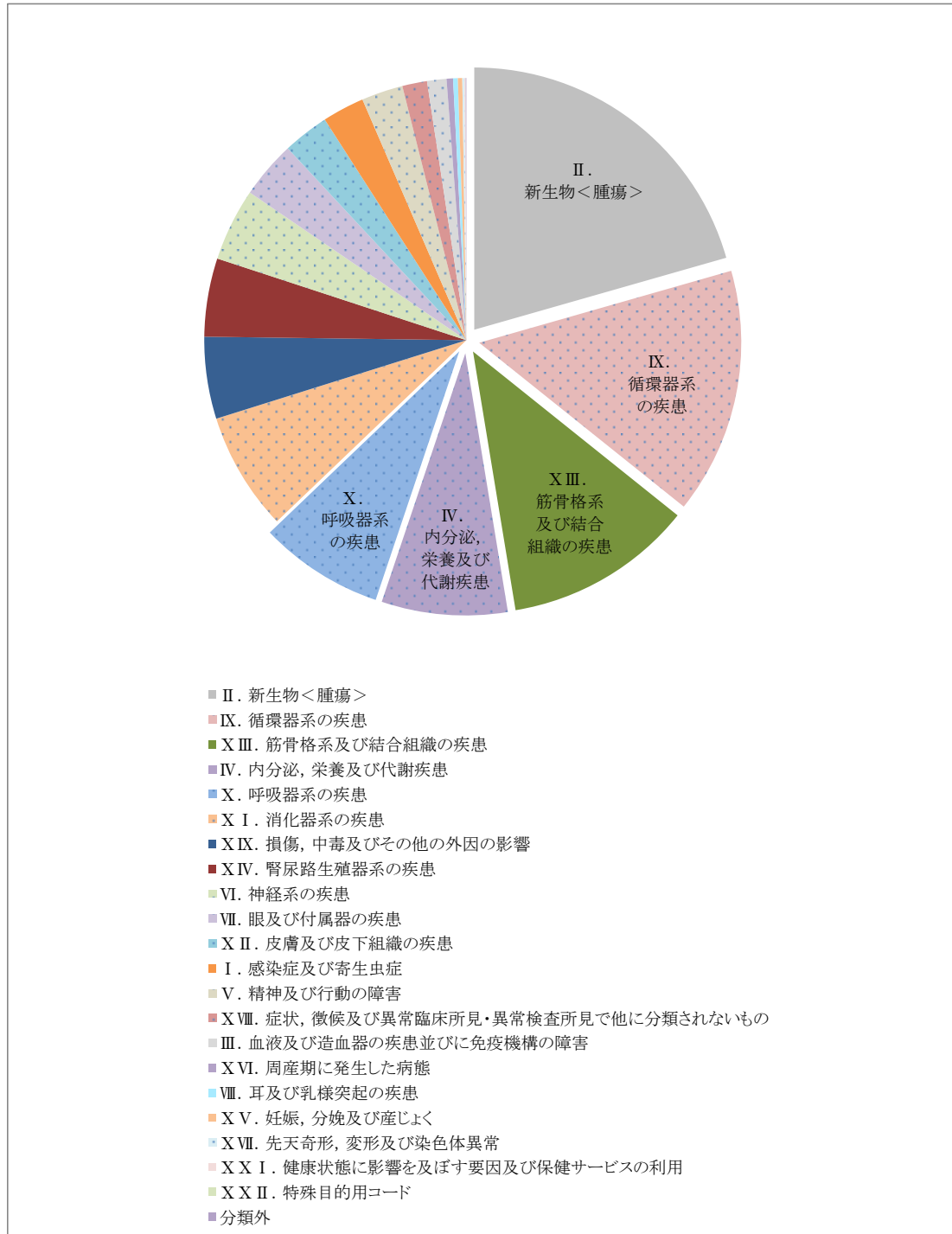
※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

疾病項目別医療費割合は、「新生物<腫瘍>」「循環器系の疾患」「筋骨格系及び結合組織の疾患」「内分泌、栄養及び代謝疾患」「呼吸器系の疾患」の医療費で過半数を占める。

疾病項目別医療費割合



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12ヵ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

②中分類による疾病別医療費統計

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトより、疾病中分類毎に集計し、医療費、患者数、患者一人当たりの医療費、各項目の上位10疾病を示す。

中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)
1	0901	高血圧性疾患	34,092,255	4.4%
2	0402	糖尿病	32,032,460	4.2%
3	0903	その他の心疾患	31,033,552	4.0%
4	1113	その他の消化器系の疾患	27,140,437	3.5%
5	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	26,578,291	3.5%
6	0209	白血病	24,752,329	3.2%
7	0208	悪性リンパ腫	24,039,708	3.1%
8	0606	その他の神経系の疾患	21,566,549	2.8%
9	1302	関節症	21,206,931	2.8%
10	0403	脂質異常症	20,728,284	2.7%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)
1	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	5,438,253	818	33.8%
2	1006	アレルギー性鼻炎	10,393,407	757	31.3%
3	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	11,768,680	752	31.0%
4	0402	糖尿病	32,032,460	703	29.0%
5	1113	その他の消化器系の疾患	27,140,437	658	27.2%
6	0901	高血圧性疾患	34,092,255	650	26.8%
7	1202	皮膚炎及び湿疹	10,103,790	611	25.2%
8	1105	胃炎及び十二指腸炎	6,583,361	543	22.4%
9	0403	脂質異常症	20,728,284	542	22.4%
10	0703	屈折及び調節の障害	2,468,814	502	20.7%

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

中分類による疾病別統計(患者一人当たりの医療費が高額な上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	患者一人当たりの 医療費(円)
1	0209	白血病	24,752,329	3,536,047
2	0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	5,506,691	1,376,673
3	0208	悪性リンパ腫	24,039,708	1,335,539
4	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	16,799,129	1,119,942
5	1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	1,964,093	654,698
6	0904	くも膜下出血	5,915,633	537,785
7	1402	腎不全	19,949,412	424,456
8	0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>	11,073,711	335,567
9	0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	12,988,772	265,077
10	0506	知的障害<精神遅滞>	1,524,028	190,504

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

中分類による疾病別医療費統計(全項目)

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※
	769,075,220	32,687

疾病項目	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	19,959,277	2.6%		3,135	9.6%		24,341	
0101 腸管感染症	1,911,742	0.2%	73	632	1.9%	47	7,054	94
0102 結核	180,779	0.0%	102	76	0.2%	94	8,217	91
0103 主として性的伝播様式をとる 感染症	292,276	0.0%	101	134	0.4%	81	3,950	114
0104 皮膚及び粘膜の病変を伴う ウイルス性疾患	2,393,248	0.3%	65	580	1.8%	52	15,244	76
0105 ウイルス性肝炎	9,589,453	1.2%	33	561	1.7%	54	66,593	28
0106 その他のウイルス性疾患	96,991	0.0%	109	51	0.2%	99	4,217	110
0107 真菌症	3,380,669	0.4%	57	833	2.5%	38	17,161	70
0108 感染症及び寄生虫症の 続発・後遺症	7,425	0.0%	116	5	0.0%	116	2,475	118
0109 その他の感染症及び寄生虫症	2,106,694	0.3%	70	669	2.0%	44	8,741	89
II. 新生物<腫瘍>	158,229,915	20.6%		2,598	7.9%		241,942	
0201 胃の悪性新生物<腫瘍>	10,404,085	1.4%	30	335	1.0%	64	83,233	23
0202 結腸の悪性新生物<腫瘍>	13,591,286	1.8%	18	284	0.9%	66	131,954	13
0203 直腸S状結腸移行部及び 直腸の悪性新生物<腫瘍>	16,799,129	2.2%	13	93	0.3%	91	1,119,942	4
0204 肝及び肝内胆管の 悪性新生物<腫瘍>	12,988,772	1.7%	20	169	0.5%	76	265,077	9
0205 気管、気管支及び肺の 悪性新生物<腫瘍>	9,005,448	1.2%	34	263	0.8%	69	111,178	16
0206 乳房の悪性新生物<腫瘍>	11,073,711	1.4%	27	192	0.6%	73	335,567	8
0207 子宮の悪性新生物<腫瘍>	4,913,443	0.6%	49	131	0.4%	82	89,335	22
0208 悪性リンパ腫	24,039,708	3.1%	7	106	0.3%	86	1,335,539	3
0209 白血病	24,752,329	3.2%	6	55	0.2%	98	3,536,047	1
0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	19,862,840	2.6%	12	833	2.5%	38	91,534	19
0211 良性新生物<腫瘍>及び その他の新生物<腫瘍>	10,799,164	1.4%	28	873	2.7%	36	28,494	63
III. 血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	9,171,068	1.2%		1,042	3.2%		35,273	
0301 貧血	1,665,803	0.2%	77	658	2.0%	45	10,747	87
0302 その他の血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	7,505,265	1.0%	37	483	1.5%	58	51,760	39
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	59,723,020	7.8%		10,554	32.3%		56,236	
0401 甲状腺障害	2,723,826	0.4%	60	703	2.2%	41	15,389	74
0402 糖尿病	32,032,460	4.2%	2	5,016	15.3%	4	45,565	44
0403 脂質異常症	20,728,284	2.7%	10	6,769	20.7%	2	38,244	51
0404 その他の内分泌、栄養及び 代謝疾患	4,238,450	0.6%	53	1,711	5.2%	22	12,805	82
V. 精神及び行動の障害	19,675,641	2.6%		2,104	6.4%		82,325	
0501 血管性及び詳細不明の認知症	24,133	0.0%	114	12	0.0%	113	4,827	105
0502 精神作用物質使用による 精神及び行動の障害	524,886	0.1%	94	45	0.1%	100	30,876	59
0503 統合失調症、統合失調症型障害 及び妄想性障害	7,080,363	0.9%	38	502	1.5%	56	186,325	11

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※
	769,075,220	32,687

疾病項目	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位	
0504	気分[感情]障害(躁うつ病を含む)	4,630,390	0.6%	51	962	2.9%	34	56,468	36
0505	神経症性障害, ストレス関連障害 及び身体表現性障害	2,278,880	0.3%	68	1,252	3.8%	30	15,716	72
0506	知的障害<精神遅滞>	1,524,028	0.2%	81	13	0.0%	111	190,504	10
0507	その他の精神及び行動の障害	3,612,961	0.5%	56	166	0.5%	77	133,813	12
VI. 神経系の疾患		34,479,780	4.5%		4,681	14.3%		65,427	
0601	パーキンソン病	448,677	0.1%	96	67	0.2%	97	74,780	24
0602	アルツハイマー病	1,404,891	0.2%	82	117	0.4%	83	108,069	17
0603	てんかん	4,468,630	0.6%	52	572	1.7%	53	59,582	33
0604	脳性麻痺及びその他の 麻痺性症候群	5,506,691	0.7%	45	24	0.1%	105	1,376,673	2
0605	自律神経系の障害	1,084,342	0.1%	85	152	0.5%	79	49,288	42
0606	その他の神経系の疾患	21,566,549	2.8%	8	4,147	12.7%	5	44,467	46
VII. 眼及び付属器の疾患		27,231,745	3.5%		2,421	7.4%		45,922	
0701	結膜炎	1,300,577	0.2%	83	848	2.6%	37	6,536	97
0702	白内障	8,435,020	1.1%	35	725	2.2%	40	59,823	32
0703	屈折及び調節の障害	2,468,814	0.3%	64	1,872	5.7%	21	4,918	104
0704	その他の眼及び付属器の疾患	15,027,334	2.0%	15	1,597	4.9%	23	41,976	48
VIII. 耳及び乳様突起の疾患		2,239,235	0.3%		545	1.7%		13,571	
0801	外耳炎	150,704	0.0%	105	103	0.3%	87	3,966	113
0802	その他の外耳疾患	134,051	0.0%	106	68	0.2%	96	3,528	116
0803	中耳炎	396,531	0.1%	97	152	0.5%	79	7,775	93
0804	その他の中耳及び 乳様突起の疾患	63,196	0.0%	111	21	0.1%	107	6,320	99
0805	メニエール病	734,168	0.1%	91	102	0.3%	88	45,886	43
0806	その他の内耳疾患	104,514	0.0%	108	32	0.1%	103	11,613	85
0807	その他の耳疾患	656,071	0.1%	92	303	0.9%	65	6,834	95
IX. 循環器系の疾患		116,676,543	15.2%		10,842	33.2%		118,694	
0901	高血圧性疾患	34,092,255	4.4%	1	8,859	27.1%	1	52,450	38
0902	虚血性心疾患	11,581,214	1.5%	25	2,054	6.3%	18	42,578	47
0903	その他の心疾患	31,033,552	4.0%	3	3,054	9.3%	12	70,371	27
0904	くも膜下出血	5,915,633	0.8%	44	28	0.1%	104	537,785	6
0905	脳内出血	2,476,399	0.3%	63	84	0.3%	92	103,183	18
0906	脳梗塞	6,383,058	0.8%	42	646	2.0%	46	45,270	45
0907	脳動脈硬化(症)	4,608	0.0%	117	1	0.0%	119	4,608	107
0908	その他の脳血管疾患	15,618,334	2.0%	14	687	2.1%	42	72,983	25
0909	動脈硬化(症)	2,983,084	0.4%	58	629	1.9%	48	13,199	81
0911	低血圧(症)	510,946	0.1%	95	39	0.1%	102	63,868	31
0912	その他の循環器系の疾患	6,077,460	0.8%	43	546	1.7%	55	50,227	41
X. 呼吸器系の疾患		59,153,408	7.7%		7,704	23.6%		45,998	
1001	急性鼻咽頭炎[かぜ]<感冒>	178,906	0.0%	103	174	0.5%	75	2,631	117
1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	1,892,834	0.2%	75	1,344	4.1%	28	3,847	115
1003	その他の急性上気道感染症	2,333,039	0.3%	67	1,157	3.5%	32	6,445	98

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※
	769,075,220	32,687

疾病項目	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
1004 肺炎	4,915,796	0.6%	48	221	0.7%	71	55,234	37
1005 急性気管支炎及び 急性細気管支炎	5,438,253	0.7%	46	2,924	8.9%	13	6,648	96
1006 アレルギー性鼻炎	10,393,407	1.4%	31	4,113	12.6%	6	13,730	80
1007 慢性副鼻腔炎	1,815,866	0.2%	76	495	1.5%	57	15,389	75
1008 急性又は慢性と明示されない 気管支炎	128,458	0.0%	107	94	0.3%	90	4,588	108
1009 慢性閉塞性肺疾患	4,663,457	0.6%	50	908	2.8%	35	30,884	58
1010 喘息	12,789,777	1.7%	21	2,500	7.6%	14	35,726	52
1011 その他の呼吸器系の疾患	14,603,615	1.9%	16	1,315	4.0%	29	30,111	62
X I . 消化器系の疾患	56,160,351	7.3%		9,872	30.2%		46,800	
1101 う蝕 ※	0	0.0%		0	0.0%		0	
1102 歯肉炎及び歯周疾患	721	0.0%	120	2	0.0%	118	721	120
1103 その他の歯及び歯の支持組織の 障害	3,304	0.0%	119	4	0.0%	117	1,652	119
1104 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	11,082,351	1.4%	26	3,556	10.9%	9	25,073	64
1105 胃炎及び十二指腸炎	6,583,361	0.9%	41	3,738	11.4%	8	12,124	83
1106 痔核	743,637	0.1%	90	210	0.6%	72	14,031	79
1107 アルコール性肝疾患	1,565,662	0.2%	79	80	0.2%	93	111,833	15
1108 慢性肝炎 (アルコール性のものを除く)	960,753	0.1%	88	624	1.9%	49	8,578	90
1109 肝硬変 (アルコール性のものを除く)	324,495	0.0%	98	100	0.3%	89	12,018	84
1110 その他の肝疾患	2,709,327	0.4%	61	1,200	3.7%	31	7,830	92
1111 胆石症及び胆のう炎	2,895,704	0.4%	59	340	1.0%	63	34,473	54
1112 膵疾患	2,150,599	0.3%	69	236	0.7%	70	31,168	57
1113 その他の消化器系の疾患	27,140,437	3.5%	4	5,229	16.0%	3	41,247	49
X II . 皮膚及び皮下組織の疾患	21,922,971	2.9%		4,517	13.8%		26,999	
1201 皮膚及び皮下組織の感染症	1,077,318	0.1%	86	582	1.8%	51	5,553	101
1202 皮膚炎及び湿疹	10,103,790	1.3%	32	3,423	10.5%	10	16,536	71
1203 その他の皮膚及び 皮下組織の疾患	10,741,863	1.4%	29	2,137	6.5%	17	22,807	65
X III . 筋骨格系及び結合組織の疾患	89,643,153	11.7%		9,570	29.3%		79,683	
1301 炎症性多発性関節障害	12,575,574	1.6%	22	1,523	4.7%	24	66,187	29
1302 関節症	21,206,931	2.8%	9	2,409	7.4%	15	70,455	26
1303 脊椎障害(脊椎症を含む)	14,536,343	1.9%	17	1,966	6.0%	20	50,473	40
1304 椎間板障害	3,891,551	0.5%	55	687	2.1%	42	30,642	61
1305 頰腕症候群	2,386,671	0.3%	66	1,411	4.3%	26	11,419	86
1306 腰痛症及び坐骨神経痛	6,706,205	0.9%	40	3,193	9.8%	11	14,269	78
1307 その他の脊柱障害	2,047,123	0.3%	71	433	1.3%	60	19,312	67
1308 肩の傷害<損傷>	5,186,887	0.7%	47	1,005	3.1%	33	32,622	55
1309 骨の密度及び構造の障害	7,884,783	1.0%	36	1,976	6.0%	19	32,448	56
1310 その他の筋骨格系及び 結合組織の疾患	13,221,085	1.7%	19	2,283	7.0%	16	30,747	60

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※
	769,075,220	32,687

疾病項目		医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
XIV. 腎尿路生殖器系の疾患		37,138,961	4.8%		2,471	7.6%		64,033	
1401	糸球体疾患及び 腎尿管間質性疾患	2,515,029	0.3%	62	266	0.8%	68	39,297	50
1402	腎不全	19,949,412	2.6%	11	344	1.1%	62	424,456	7
1403	尿路結石症	1,576,592	0.2%	78	109	0.3%	84	58,392	34
1404	その他の腎尿路系の疾患	6,720,314	0.9%	39	1,352	4.1%	27	18,877	68
1405	前立腺肥大(症)	4,017,299	0.5%	54	464	1.4%	59	57,390	35
1406	その他の男性生殖器の疾患	51,897	0.0%	112	16	0.0%	109	5,766	100
1407	月経障害及び閉経周辺期障害	780,407	0.1%	89	154	0.5%	78	15,008	77
1408	乳房及びその他の女性生殖器の 疾患	1,528,011	0.2%	80	276	0.8%	67	10,395	88
XV. 妊娠、分娩及び産じょく		2,079,715	0.3%		91	0.3%		77,026	
1501	流産	174,935	0.0%	104	20	0.1%	108	19,437	66
1502	妊娠高血圧症候群	0	0.0%		0	0.0%		0	
1503	単胎自然分娩	0	0.0%		0	0.0%		0	
1504	その他の妊娠、分娩及び産じょく	1,904,780	0.2%	74	73	0.2%	95	90,704	20
XVI. 周産期に発生した病態		3,062,153	0.4%		25	0.1%		278,378	
1601	妊娠及び胎児発育に 関連する障害	1,964,093	0.3%	72	10	0.0%	115	654,698	5
1602	その他の周産期に発生した病態	1,098,060	0.1%	84	16	0.0%	109	122,007	14
XVII. 先天奇形、変形及び染色体異常		1,028,493	0.1%		121	0.4%		31,166	
1701	心臓の先天奇形	17,344	0.0%	115	12	0.0%	113	4,336	109
1702	その他の先天奇形、 変形及び染色体異常	1,011,149	0.1%	87	109	0.3%	84	34,867	53
XVIII. 症状、徴候及び異常臨床 所見・異常検査所見で他に分類 されないもの		11,768,680	1.5%		3,761	11.5%		15,650	
1800	症状、徴候及び異常臨床 所見・異常検査所見で他に分類 されないもの	11,768,680	1.5%	24	3,761	11.5%	7	15,650	73
XIX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響		38,848,112	5.1%		1,859	5.7%		79,770	
1901	骨折	11,848,129	1.5%	23	421	1.3%	61	89,759	21
1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	300,514	0.0%	100	24	0.1%	105	17,677	69
1903	熱傷及び腐食	37,613	0.0%	113	13	0.0%	111	5,373	102
1904	中毒	83,565	0.0%	110	42	0.1%	101	4,178	111
1905	その他の損傷及びその他の外因 の影響	26,578,291	3.5%	5	1,499	4.6%	25	64,984	30
XXI. 健康状態に影響を及ぼす要因 及び保健サービスの利用		566,810	0.1%		610	1.9%		4,803	
2101	検査及び診査のための保健 サービスの利用者	4,072	0.0%	118	1	0.0%	119	4,072	112
2102	予防接種	0	0.0%		0	0.0%		0	
2103	正常妊娠及び産じょくの管理 並びに家族計画	0	0.0%		0	0.0%		0	
2104	歯の補てつ	0	0.0%		0	0.0%		0	

※大分類毎の集計を 網掛け 表示する。
 ※各項目毎に上位10疾病(中分類)を 網掛け 表示する。

総合計	医療費総計 (円) ※	レセプト件数 ※
	769,075,220	32,687

疾病項目		医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト件数 ※	構成比 (%)	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
2105	特定の処置(歯の補てつを 除く)及び保健ケアのための保健 サービスの利用者	0	0.0%		0	0.0%		0	
2106	その他の理由による保健サービス の利用者	562,738	0.1%	93	609	1.9%	50	4,810	106
X X II. 特殊目的用コード		0	0.0%		0	0.0%		0	
2210	重症急性呼吸器症候群[SARS]	0	0.0%		0	0.0%		0	
2220	その他の特殊目的用コード	0	0.0%		0	0.0%		0	
分類外		316,189	0.0%		186	0.6%		5,270	
9999	分類外	316,189	0.0%	99	186	0.6%	74	5,270	103

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…中分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

※う蝕…「う蝕」等歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

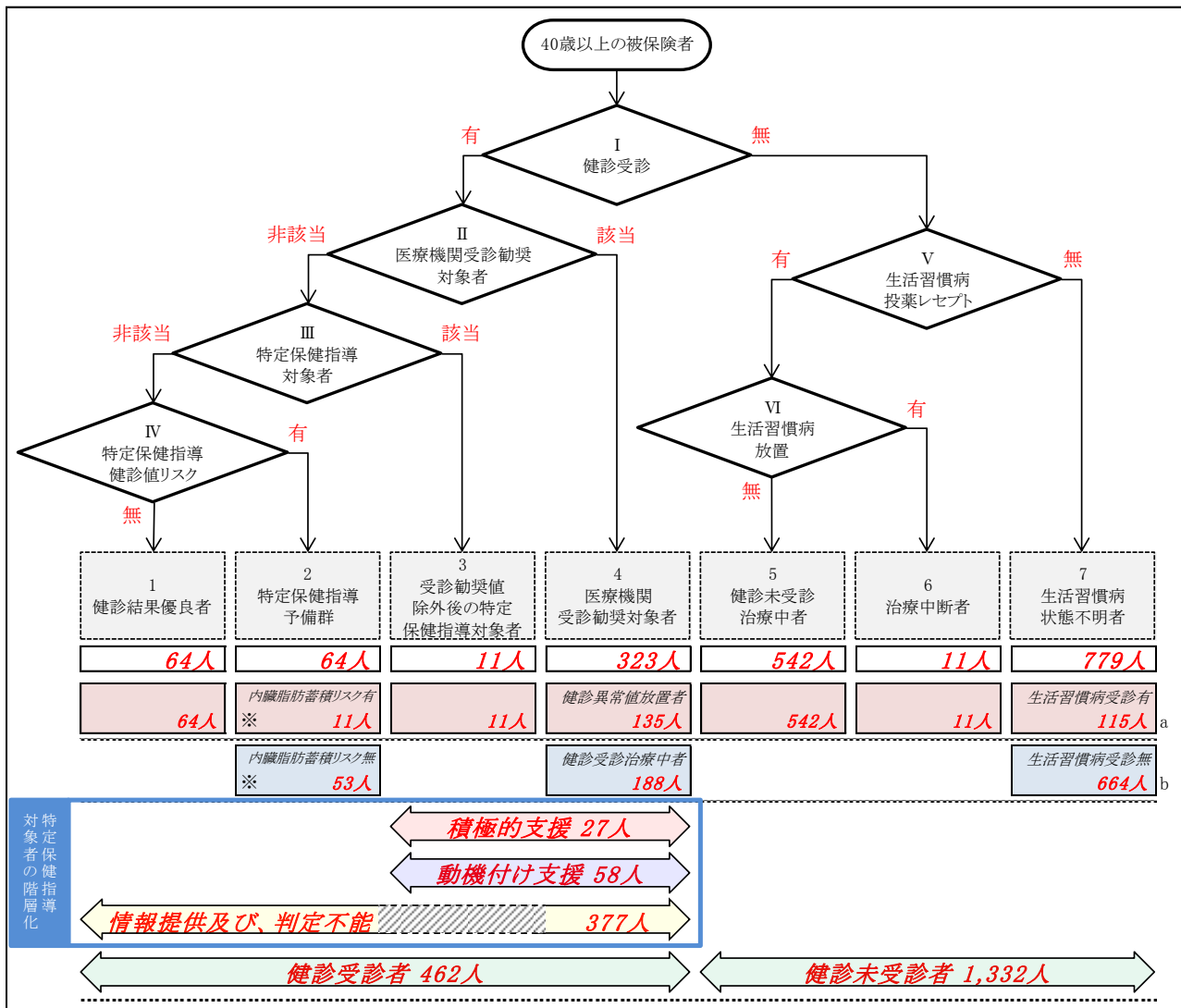
4. 保健事業実施に係る分析結果

(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析

特定健康診査データとレセプトデータを組み合わせた分析を行う。40歳以上の被保険者について、特定健康診査データの有無や異常値の有無、生活習慣病にかかわるレセプトの有無等を判定し、7つのグループに分類し、分析結果を以下に示す。

左端の「1. 健診結果優良者」から「6. 治療中断者」まで順に健康状態が悪くなっており、「7. 生活習慣病状態不明者」は特定健康診査データ・レセプトデータから生活習慣病状態が確認できないグループである。

平成28年度特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
 データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。
 資格確認日…平成29年3月31日時点。
 各フローの詳細については巻末資料「1. 指導対象者群分析」のグループ分けの見方を参照。
 ※内臓脂肪蓄積リスク…腹囲・BMIにより内臓脂肪蓄積リスクを判定し階層化。

(2) 特定保健指導に係る分析

日本人の生活習慣の変化や高齢者の増加等により、近年、糖尿病等の生活習慣病の有病者・予備群が増加しており、生活習慣病を原因とする死亡は、全体の約3分の1にのぼると推計されている。厚生労働省は、40歳以上の被保険者へメタボリックシンドロームの予防・解消に重点を置いた、生活習慣病予防のための特定健康診査・特定保健指導の実施を義務付けている。

「(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析」にある「3. 受診勧奨値除外後の特定保健指導対象者」「4. 医療機関受診勧奨対象者」に該当する対象者より、特定保健指導対象者は85人である。このうち、積極的支援の対象者は27人、動機付け支援の対象者は58人である。

特定保健指導対象者のリスク因子別該当状況

特定保健指導対象者	リスク判定 ※ (該当に●)				対象者	
	① 血糖	② 血圧	③ 脂質	④ 喫煙	85人	
積極的支援	●●●●	1人			27人	32%
	●●●	4人				
	●●●	1人				
	●●●	0人				
	●●●	3人				
	●●●	6人				
	●●●	0人				
	●●●	2人				
	●●●	0人				
	●●●	8人				
	●●●	2人				
	●●●	0人				
	●●●	0人				
	●●●	0人				
動機付け支援	●●●●	1人			58人	68%
	●●●●	3人				
	●●●●	2人				
	●●●●	0人				
	●●●●	0人				
	●●●●	7人				
	●●●●	1人				
	●●●●	3人				
	●●●●	0人				
	●●●●	2人				
	●●●●	0人				
	●●●●	5人				
	●●●●	34人				
	●●●●	0人				
●●●●	0人					

データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

※リスク判定…健診検査値が特定保健指導判定値を超えている組み合わせ(喫煙については質問回答による)。そのため、厚生労働省が定める保健指導対象者の選定にない組み合わせに該当する場合がある。

リスク判定の詳細は以下の通りとする。

- ①血糖…特定健康診査の検査値において、空腹時血糖100mg/dl以上またはHbA1c5.6%以上(NGSP)
- ②血圧…特定健康診査の検査値において、収縮期血圧が130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上
- ③脂質…特定健康診査の検査値において、中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満
- ④喫煙…特定健康診査の生活習慣に関する質問票においてたばこを習慣的に吸っていると回答

(3) 健診異常値放置者に係る分析

特定健康診査では異常値があった場合、医療機関での精密検査を勧めている。しかし、異常値があるにもかかわらず、医療機関への受診をしていない者が存在する。これらの対象者をレセプトにより見極める。

「(1) 特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析」において「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、医療機関への受診をしていない「健診異常値放置者」に該当する135人が健診異常値放置受診勧奨対象者となる。

条件設定による指導対象者の特定(健診異常値放置)

I. 条件設定による指導対象者の特定	
・健診異常値放置者 …健診受診後、4カ月以上医療機関へ受診していない人 厚生労働省受診勧奨判定値以上の検査数値のある人を対象とする	
条件設定により対象となった候補者数	135 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
 データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。
 資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、指導対象者として適切ではない可能性がある患者を「除外設定」により除外する。「がん患者」「難病患者」に関しては、すでにこれらの疾患について医療機関での治療を受けており、健診異常が発生している状態についても認知していると考えられるためである。また、指導が困難な可能性がある患者、事業の効果を測定できない患者についても除外する。

除外設定(健診異常値放置)

II. 除外設定		除外理由別人数
除外	がん、難病等	33 人
↓		
除外患者を除いた候補者数		102 人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
 対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
 データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。
 資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、残る対象者102人のうち、保健事業の実施効果が高い対象者を特定する。これは費用対効果を重視し、「優先順位」を決めるためである。健診異常値放置受診勧奨対象者の判定は、厚生労働省の定める受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)を用いた結果、異常が認められ、かつ生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)に対するレセプトが発生していない対象者を特定する。ここでは受診勧奨判定異常値因子数(血糖、血圧、脂質)が多い患者を優先とし、喫煙の有無によりリスクを判定した。

これら対象者はすべてが受診勧奨対象者ではあるが、通知件数の制約により優先順位を設定する必要がある場合、候補者Aより順に対象者を選択する。

優先順位(健診異常値放置)

Ⅲ.優先順位			
↑高 効果 ↓低	医療機関受診勧奨判定異常値因子数 3つ	候補者A 1人	候補者C 0人
	医療機関受診勧奨判定異常値因子数 2つ	候補者B 6人	候補者D 18人
	医療機関受診勧奨判定異常値因子数 1つ	候補者E 21人	候補者F 56人
	喫煙	非喫煙	
←良 効率 悪→			
効果が高く効率の良い候補者A～候補者Fの人数			102人

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

データ化範囲(分析対象)…健康診査データは平成28年4月～平成29年3月健診分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

(4) 糖尿病性腎症重症化予防に係る分析

人工透析患者の分析を行った。「透析」は傷病名ではないため、「透析」にあたる診療行為が行われている患者を特定し、集計した。

分析の結果、起因が明らかとなった患者のうち、60.0%が生活習慣を起因とするものであり、その40.0%が糖尿病を起因として透析となる、糖尿病性腎症であることが分かった。

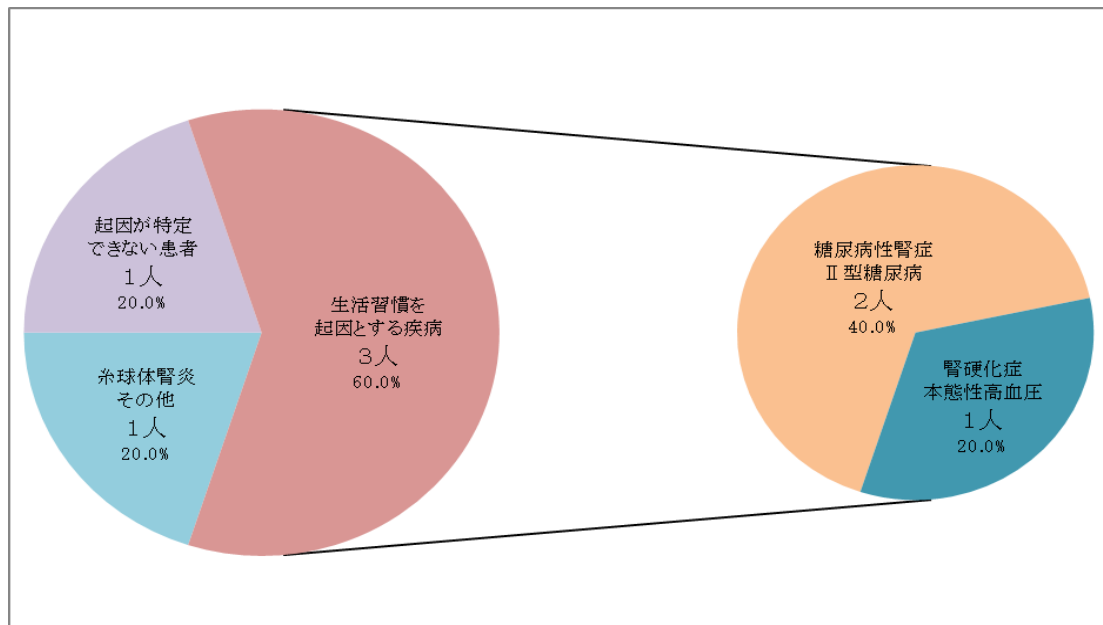
対象レセプト期間内で「透析」に関する診療行為が行われている患者数

透析療法の種類	透析患者数 (人)
血液透析のみ	5
腹膜透析のみ	0
血液透析及び腹膜透析	0
透析患者合計	5

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12ヵ月分)。

データ化範囲(分析対象)期間内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。現時点で資格喪失している被保険者についても集計する。緊急透析と思われる患者は除く。



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12ヵ月分)。

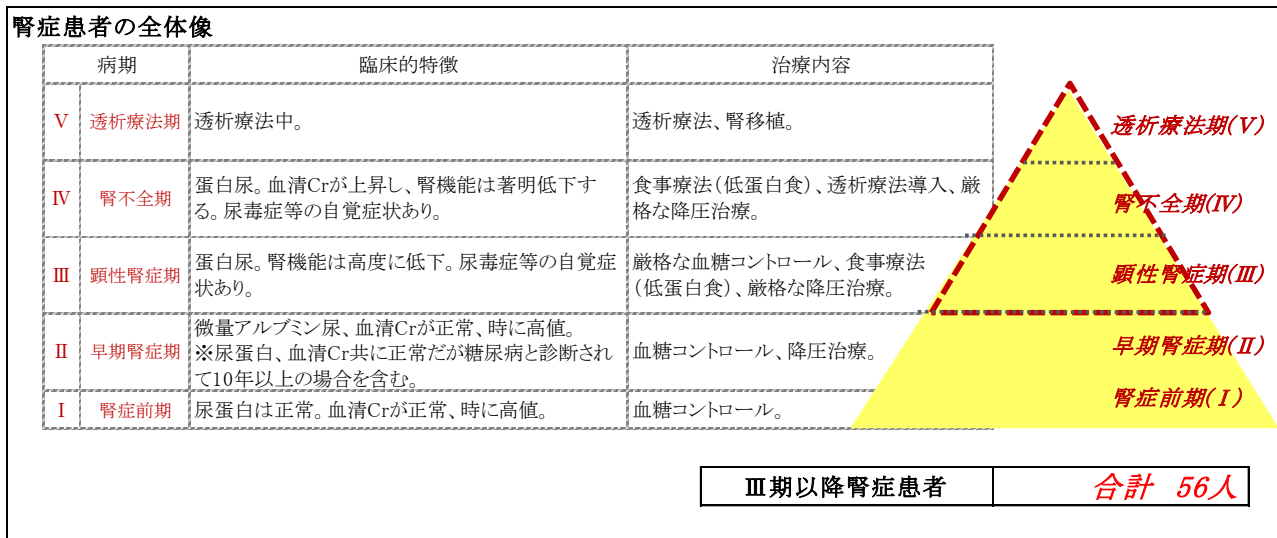
データ化範囲(分析対象)期間内に「腹膜透析」もしくは「血液透析」の診療行為がある患者を対象に集計。現時点で資格喪失している被保険者についても集計する。緊急透析と思われる患者は除く。

※割合…小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

「腎症の起因分析と指導対象者適合分析」「Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者」「保健指導対象者の優先順位」の3段階を経て分析し、適切な対象者集団を特定する。その結果、腎症患者56人中13人の適切な指導対象者を特定した。

腎症患者の全体像を以下に示す。

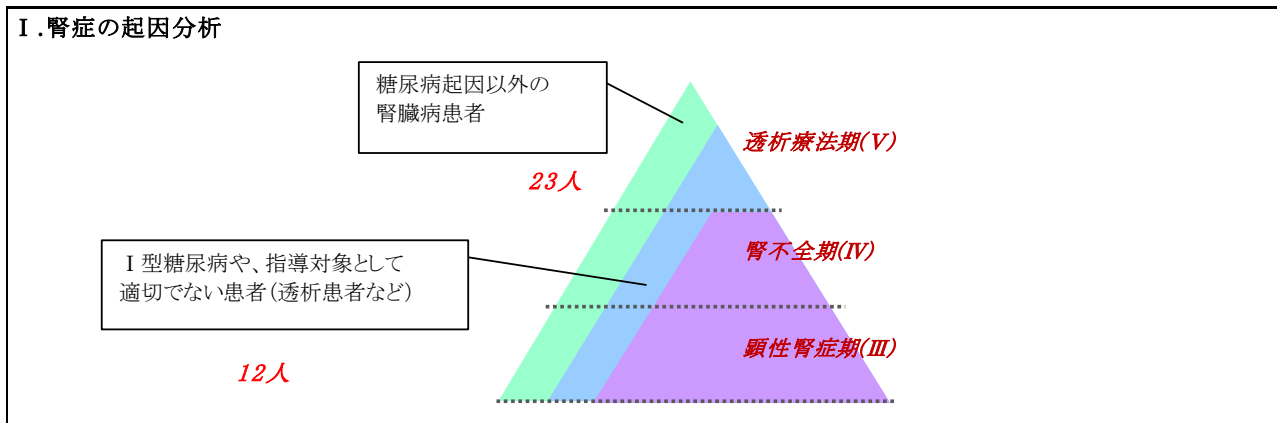
腎症患者の全体像



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

「腎症の起因分析と指導対象者適合分析」を以下に示す。緑色部分は糖尿病起因以外の腎臓病患者と考えられ、23人の患者が存在する。また、青色部分は糖尿病患者であるが、生活習慣を起因としていない糖尿病患者や、指導対象として適切でない患者(透析患者、腎臓移植した可能性がある患者、すでに資格喪失している等)と考えられ、12人の患者が存在する。紫色部分は生活習慣起因の糖尿病または腎症と考えられる患者で、この患者層が保健指導対象者として適切となる。

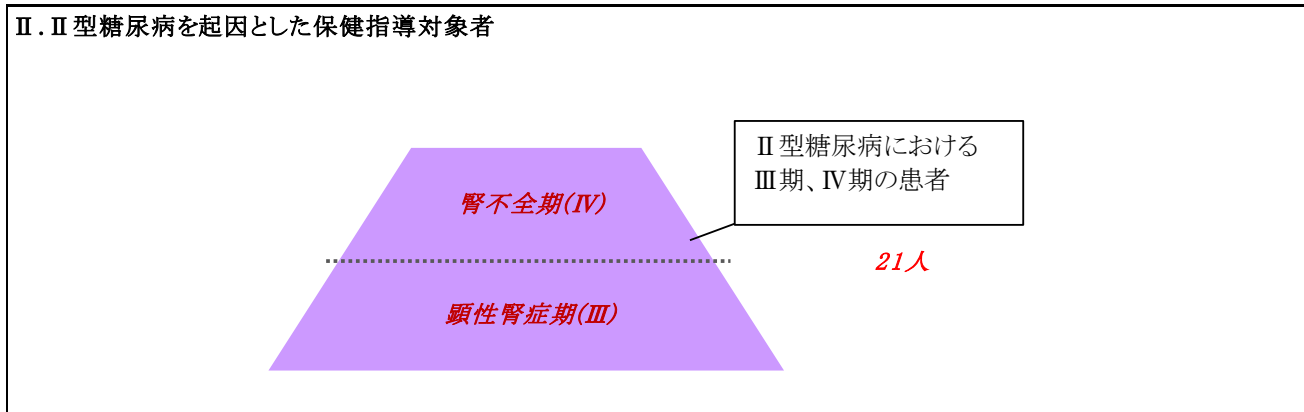
腎症の起因分析と指導対象者適合分析



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、「Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者」を以下の通り示す。腎不全期または顕性腎症期の患者は合わせて21人となった。重症化予防を実施するに当たり、適切な病期は、透析への移行が近い腎不全期、腎機能が急激に低下する顕性腎症期となる。

Ⅱ型糖尿病を起因とした保健指導対象者

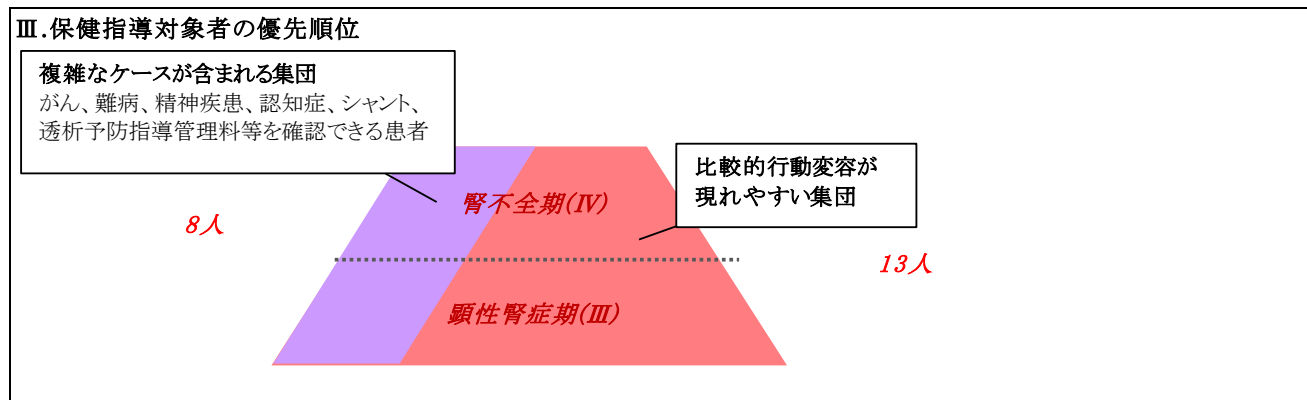


データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

次に、個人毎の状態を見極め、「保健指導対象者の優先順位」について分析した。21人のうち「複雑なケースが含まれる集団」、つまり、がん、難病、精神疾患、認知症等が含まれる患者は、8人存在する。

一方、それらの疾病が確認できない「比較的行動変容が現れやすい集団」は、13人存在する。保健事業を行う上で、これら2つのグループには費用対効果に大きな違いがある。「比較的行動変容が現れやすい集団」が本事業の対象者である。

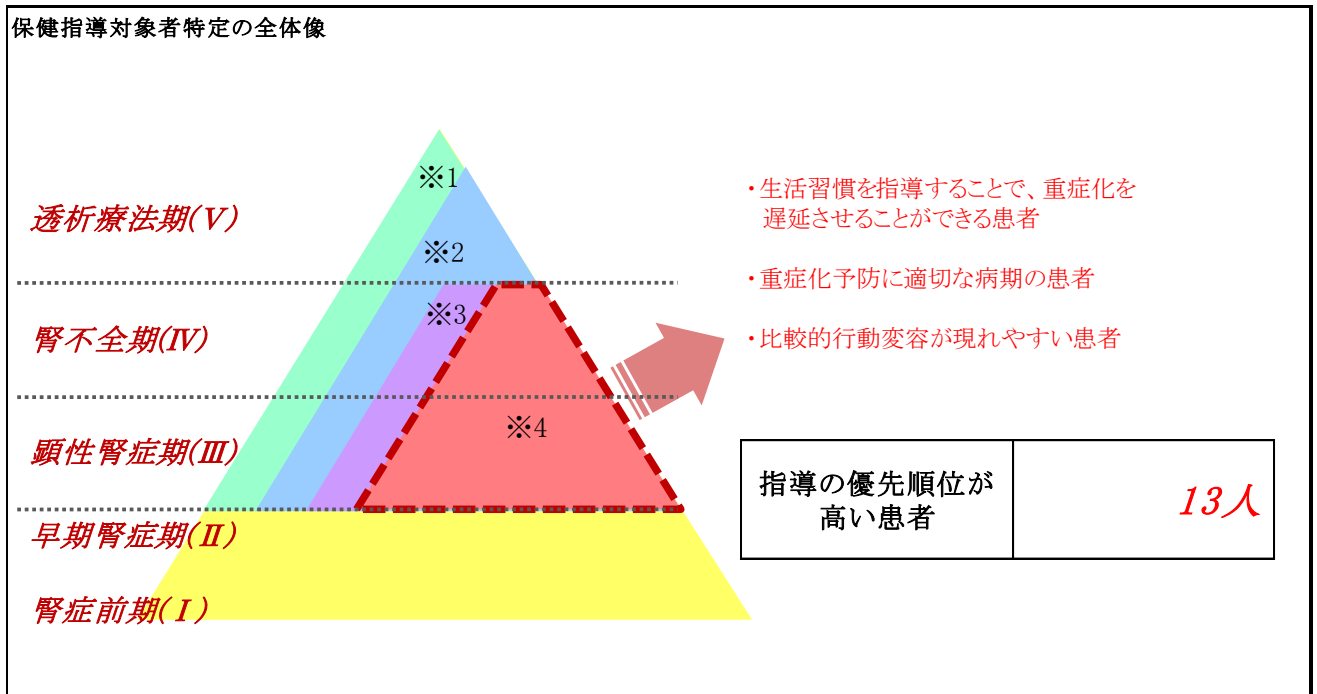
保健指導対象者の優先順位



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。
資格確認日…平成29年3月31日時点。

以上の分析のように「腎症の起因分析と指導対象者適合分析」「II型糖尿病を起因とした保健指導対象者」「保健指導対象者の優先順位」の3段階を経て、適切な指導対象者は、13人となった。この分析の全体像を以下に示す。

保健指導対象者特定の全体像



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…平成29年3月31日時点。

※1…糖尿病起因以外の腎臓病患者

※2… I型糖尿病や、指導対象として適切でない患者(透析患者等)

※3…複雑なケースが含まれる集団(がん、難病、精神疾患、認知症等を確認できる患者)

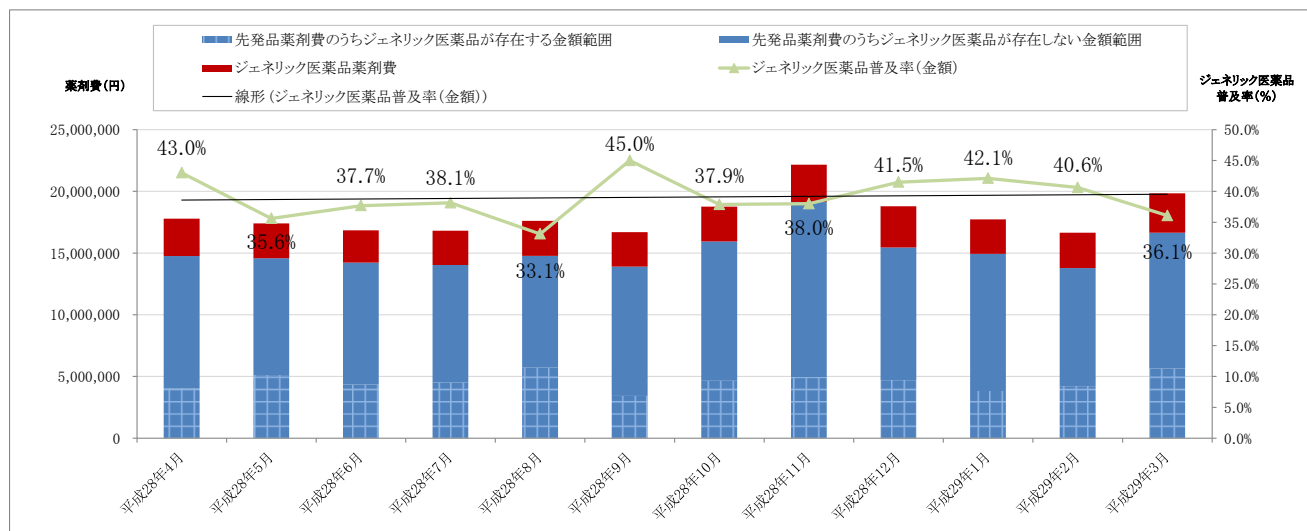
※4…比較的行動変容が現れやすい患者

(5) ジェネリック医薬品普及率に係る分析

先発医薬品からジェネリック医薬品への切り替えを患者に促し薬剤費の削減を図る。ジェネリック医薬品への切り替えは複数の疾病に対して行うことができるため、多くの患者に対してアプローチできる利点がある。

以下に平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)のジェネリック医薬品普及率(金額ベース・数量ベース)を示す。現在、ジェネリック医薬品普及率は38.8%(金額ベース)、65.7%(数量ベース)である。

ジェネリック医薬品普及率(金額ベース)



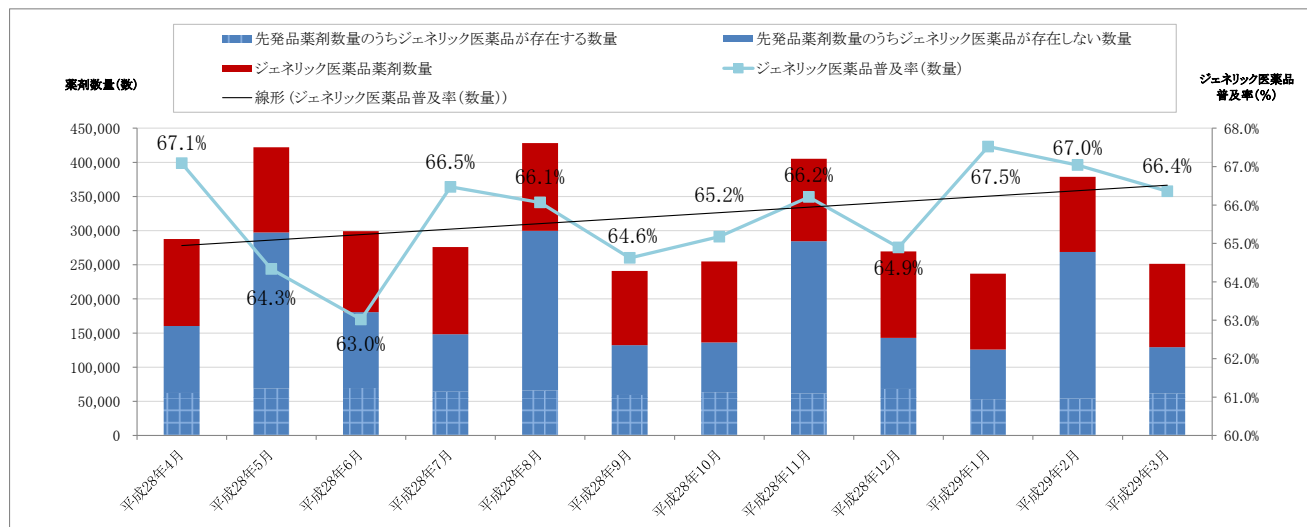
データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤費/(ジェネリック医薬品薬剤費+先発品薬剤費のうちジェネリック医薬品が存在する金額範囲)

ジェネリック医薬品普及率(数量ベース)



データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

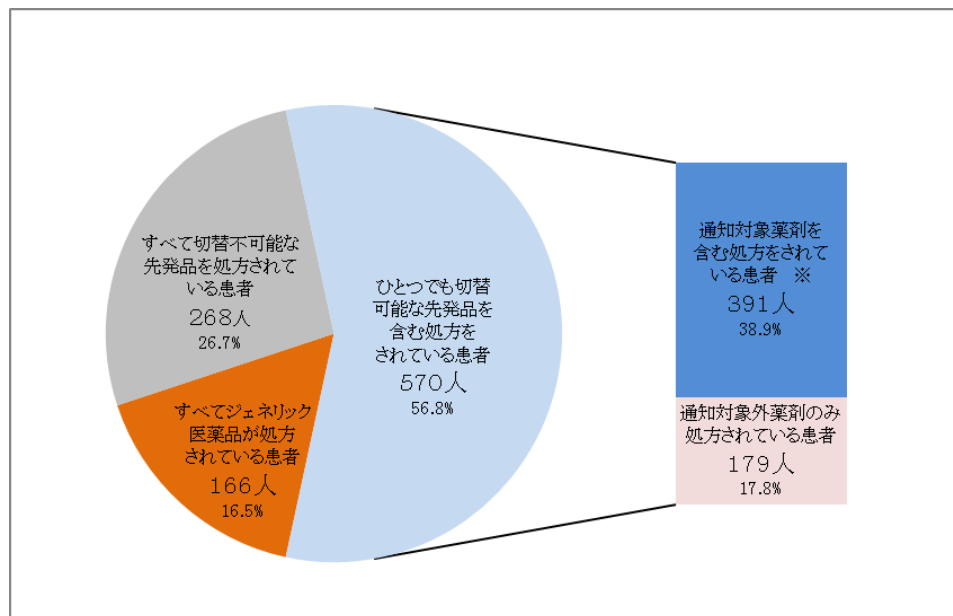
対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※ジェネリック医薬品普及率…ジェネリック医薬品薬剤数量/(ジェネリック医薬品薬剤数量+先発品薬剤数量のうちジェネリック医薬品が存在する数量)

次に、平成29年3月診療分のレセプトで薬剤処方状況別の患者数を以下に示す。患者数は1,004人(入院レセプトのみの患者は除く)で、このうちひとつでもジェネリック医薬品に切り替え可能な先発品を含む処方をされている患者は570人で患者数全体の56.8%を占める。さらにこのうち株式会社データホライゾン基準の通知対象薬剤のみに絞り込むと、391人がジェネリック医薬品切り替え可能な薬剤を含む処方をされている患者となり、全体の38.9%となる。

薬剤処方状況別患者数



データ化範囲(分析対象)…入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成29年3月診療分(1カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

※通知対象薬剤を含む処方をされている患者…株式会社データホライゾン通知対象薬剤基準による(ジェネリック医薬品が存在しても、入院、処置に使用した医薬品及び、がん・精神疾患・短期処方のみは含まない)。

※構成比…小数第2位で四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。

5. 分析結果に基づく健康課題の把握

(1) 分析結果

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)における分析結果を以下に示す。

【疾病大分類別】

医療費が高い疾病		医療費
1位	新生物<腫瘍>	158, 229, 915円
2位	循環器系の疾患	116, 676, 543円
3位	筋骨格系及び結合組織の疾患	89, 643, 153円

患者数が多い疾病		患者数
1位	呼吸器系の疾患	1, 286人
2位	消化器系の疾患	1, 200人
3位	筋骨格系及び結合組織の疾患	1, 125人

患者一人当たりの医療費が高額な疾病		患者一人当たりの医療費
1位	周産期に発生した病態	278, 378円
2位	新生物<腫瘍>	241, 942円
3位	循環器系の疾患	118, 694円

【疾病中分類別】

医療費が高い疾病		医療費
1位	高血圧性疾患	34, 092, 255円
2位	糖尿病	32, 032, 460円
3位	その他の心疾患	31, 033, 552円

患者数が多い疾病		患者数
1位	急性気管支炎及び急性細気管支炎	818人
2位	アレルギー性鼻炎	757人
3位	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	752人

患者一人当たりの医療費が高額な疾病		患者一人当たりの医療費
1位	白血病	3, 536, 047円
2位	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	1, 376, 673円
3位	悪性リンパ腫	1, 335, 539円

【高額(5万点以上)レセプトの件数と割合】

高額レセプト件数	258件
高額レセプト件数割合	0.8%
高額レセプト医療費割合	36.1%

高額レセプト発生患者の疾病傾向 患者一人当たりの医療費順(中分類)		患者一人当たりの医療費
1位	白血病	9,169,407円
2位	悪性リンパ腫	9,138,177円
3位	脳梗塞	8,844,790円

【健診異常値放置者の状況】

健診異常値放置者	135人
----------	------

【生活習慣病治療中断者の状況】

生活習慣病治療中断者	16人
------------	-----

【糖尿病性腎症発症者の状況】

人工透析患者	5人
(Ⅱ型糖尿病起因患者)	2人

【ジェネリック医薬品普及率 数量ベース】

ジェネリック医薬品普及率	65.7%
--------------	-------

※平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)期間中の実人数

(2) 分析結果に基づく課題とその対策

分析結果からみた課題と対策

課題と対策	対策となる事業
<p>◆特定健康診査受診率及び特定保健指導実施率 疾病大分類や疾病中分類において生活習慣病患者が多数存在し、医療費も多額である。特定健康診査の受診率向上を図り、必要な人に特定保健指導を行うことにより生活習慣病を予防する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健康診査の受診勧奨 ・特定保健指導の実施
<p>◆健診異常値放置者 健診異常値放置者が存在する。医療機関への受診勧奨を行うことで適切な医療につなぎ重症化を予防する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健診異常値放置者受診勧奨
<p>◆糖尿病性腎症 人工透析患者のうちⅡ型糖尿病起因の患者が存在する。糖尿病は進行すると腎症に至り透析が必要になる。そこで早期に保健指導を行い生活習慣を改善することで、腎症の悪化を遅延させることができると考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病性腎症重症化予防
<p>◆ジェネリック医薬品の普及率 国が定める現在の目標(80%以上)と比較して低いため、切り替え勧奨を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリック医薬品差額通知

【空白のページ】

第3章 保健事業実施計画

1. 各事業の目的と概要一覧

第1期データヘルス計画にて、実施する事業一覧を以下に示す。

事業名	事業目的	事業概要
特定健康診査 受診勧奨事業	特定健康診査の受診率向上	特定健康診査を受診していない者を対象者とし特定健康診査の受診を促す。
特定保健指導事業	生活習慣病該当者及び予備群の減少	特定健康診査の結果から特定保健指導対象者に生活習慣や検査値が改善されるように、専門職による支援を面接や電話、e-mail等で行う。
健診異常値放置者 受診勧奨事業	健診異常値を放置している対象者の医療機関受診	特定健康診査の受診後、その結果に異常値があるにも関わらず医療機関受診が確認できない対象者に通知書を送付することで受診勧奨を行う。
糖尿病性腎症重症化 予防事業	糖尿病性腎症患者の病期進行阻止	特定健康診査の検査値とレセプトデータから対象者を特定し、正しい生活習慣を身に付けることができるように専門職より対象者に6カ月間の面談指導と電話指導を行う。
ジェネリック 医薬品差額通知事業	ジェネリック医薬品の普及率向上	レセプトデータから、ジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定する。通知書を対象者に送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。

実施内容	目標値	
	アウトプット	アウトカム
平成30年度～平成35年度		
対象者を特定し、受診勧奨通知書を作成し、郵送する。通知後に対象者が特定健康診査を受診したかどうかを確認する。	対象者への通知率 100%	対象者の特定健康診査受診率 10.0% 特定健康診査受診率 40.0%
指導対象者に対して適切な保健指導を行う。指導後に健康診査データより検査値の推移を確認する。	対象者の指導実施率 60.0%	指導完了者の生活習慣改善率 25.0% 積極的支援及び動機付け支援対象者 25.0% 減少
健診異常値放置者に医療機関受診勧奨通知書を作成し、郵送する。通知後に医療機関受診があるか確認。	対象者への通知率 100%	医療機関受診率 80.0%
指導対象者に対して適切な保健指導を行う。指導後に健康診査データ、レセプトデータより検査値の推移、定期的な通院の有無等を確認する。	対象者の指導完了率 80.0%	指導完了者の検査値改善率 40% 新規人工透析患者割合 0%
ジェネリック医薬品差額通知書を作成し、郵送する。対象者特定方法や効果検証方法、実施後の効果を考慮し、継続を検討する。	対象者への通知率 100%	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース) 80.0%

2. 全体スケジュール

各事業におけるスケジュールについて以下に示す。

事業名	過去の取り組み			第1期					
	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度	平成 34年度	平成 35年度
特定健康診査 受診勧奨事業		実施	評価	P	D	CA	P	D	CA
特定保健指導事業		実施	評価	P	D	CA	P	D	CA
健診異常値放置者 受診勧奨事業		実施	評価	P	D	CA	P	D	CA
糖尿病性腎症 重症化予防事業			実施 評価	P	D	CA	P	D	CA
ジェネリック 医薬品差額通知事業		実施	評価	P	D	CA	P	D	CA

3. 各事業の実施内容と評価方法

本計画(第1期データヘルス計画)における実施事業及び評価方法は以下の通りである。

(1) 特定健康診査受診勧奨事業

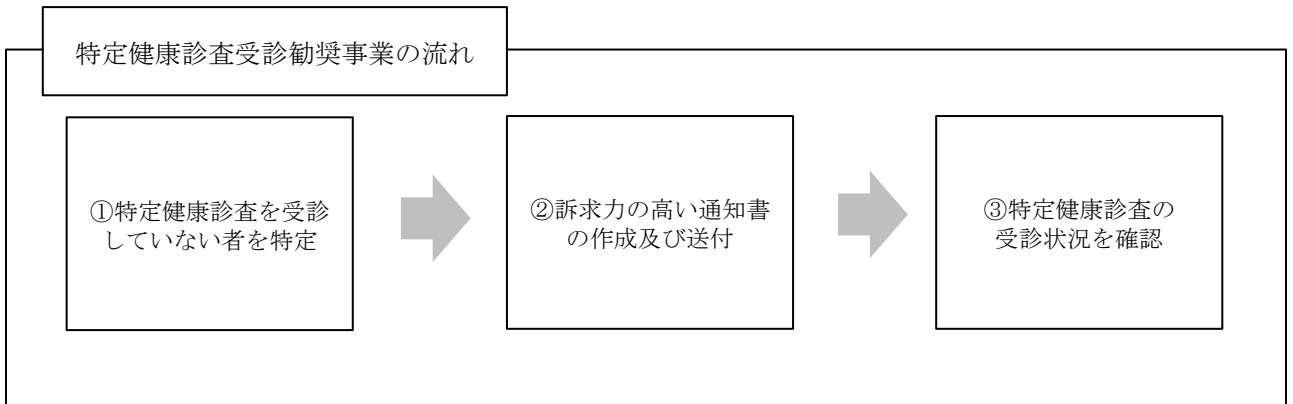
【事業目的】

特定健康診査の受診率向上

【事業概要】

特定健康診査を受診していない者を対象者とし特定健康診査の受診を促す。

【実施内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者への通知率 100%	短期 対象者の特定健康診査受診率 10.0%	事業対象者のうち特定健康診査を受診した人数より確認する。
	中長期 特定健康診査受診率 40.0%	特定健康診査受診率を確認する。

【実施スケジュール】

平成30年度～平成35年度に実施することとする。

実施年度	PDCA	実施項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成30年度	D(実行)	対象者特定、準備					←→							
		指導実施							←→					
	C(効果測定)	効果測定												
		効果確認												
	A(改善)	改善計画		←→										
P(計画)	実施計画策定 (平成31年度)		←→											
平成31年度	D(実行)	対象者特定、準備					←→							
		指導実施							←→					
	C(効果測定)	効果測定												
		効果確認	←→											
	A(改善)	改善計画		←→										
P(計画)	実施計画策定 (平成32年度)		←→											
平成32年度	D(実行)	対象者特定、準備					←→							
		指導実施							←→					
	C(効果測定)	効果測定												
		効果確認	←→											
	A(改善)	改善計画		←→										
P(計画)	実施計画策定 (平成33年度)		←→											
平成33年度	D(実行)	対象者特定、準備					←→							
		指導実施							←→					
	C(効果測定)	効果測定												
		効果確認	←→											
	A(改善)	改善計画		←→										
P(計画)	実施計画策定 (平成34年度)		←→											
平成34年度	D(実行)	対象者特定、準備					←→							
		指導実施							←→					
	C(効果測定)	効果測定												
		効果確認	←→											
	A(改善)	改善計画		←→										
P(計画)	実施計画策定 (平成35年度)		←→											
平成35年度	D(実行)	対象者特定、準備					←→							
		指導実施							←→					
	C(効果測定)	効果測定												
		効果確認	←→											
	A(改善)	改善計画		←→										
P(計画)	実施計画策定 (平成36年度)		←→											



(2) 特定保健指導事業

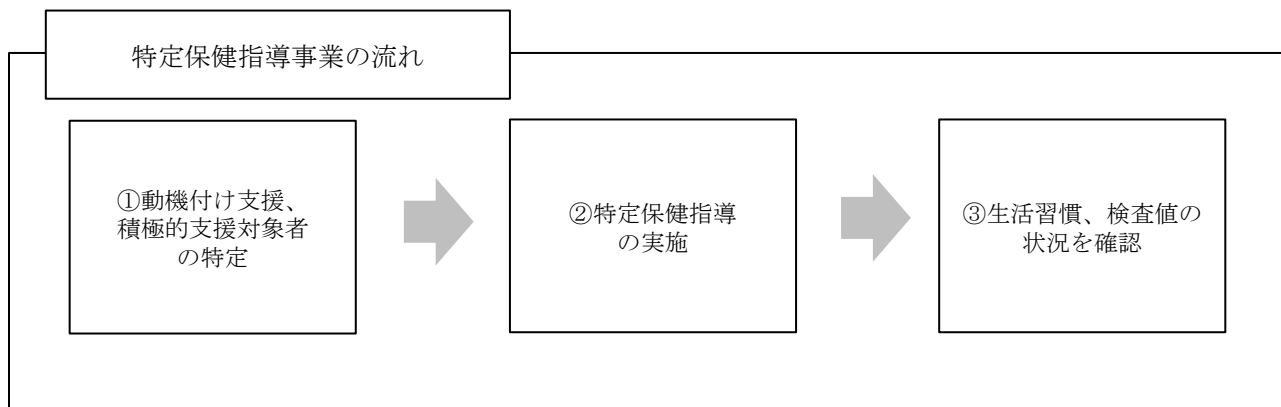
【事業目的】

生活習慣病該当者及び予備群の減少

【事業概要】

特定健康診査の結果から特定保健指導対象者を特定し、生活習慣や検査値が改善されるように、専門職による支援を面接や電話、e-mail等で行う。

【事業内容】



【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標	評価方法
対象者の指導実施率 60.0%	短期	指導完了者の生活習慣改善率 25.0% 指導前後の健康診査データから生活習慣の改善状況を確認する。
	中長期	積極的支援及び動機付け支援対象者 25.0% 減少 特定保健指導対象者割合の推移を確認する。

【実施スケジュール】

平成30年度～平成35年度に実施することとする。

実施年度	PDCA	実施項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
平成30年度	D(実行)	対象者特定、準備													
		指導実施													
	C(効果測定)	効果測定													
		効果確認													
	A(改善)	改善計画													
	P(計画)	実施計画策定 (平成31年度)													
平成31年度	D(実行)	対象者特定、準備													
		指導実施													
	C(効果測定)	効果測定													
		効果確認													
	A(改善)	改善計画													
	P(計画)	実施計画策定 (平成32年度)													
平成32年度	D(実行)	対象者特定、準備													
		指導実施													
	C(効果測定)	効果測定													
		効果確認													
	A(改善)	改善計画													
	P(計画)	実施計画策定 (平成33年度)													
平成33年度	D(実行)	対象者特定、準備													
		指導実施													
	C(効果測定)	効果測定													
		効果確認													
	A(改善)	改善計画													
	P(計画)	実施計画策定 (平成34年度)													
平成34年度	D(実行)	対象者特定、準備													
		指導実施													
	C(効果測定)	効果測定													
		効果確認													
	A(改善)	改善計画													
	P(計画)	実施計画策定 (平成35年度)													
平成35年度	D(実行)	対象者特定、準備													
		指導実施													
	C(効果測定)	効果測定													
		効果確認													
	A(改善)	改善計画													
	P(計画)	実施計画策定 (平成36年度)													



(3) 健診異常値放置者受診勧奨事業

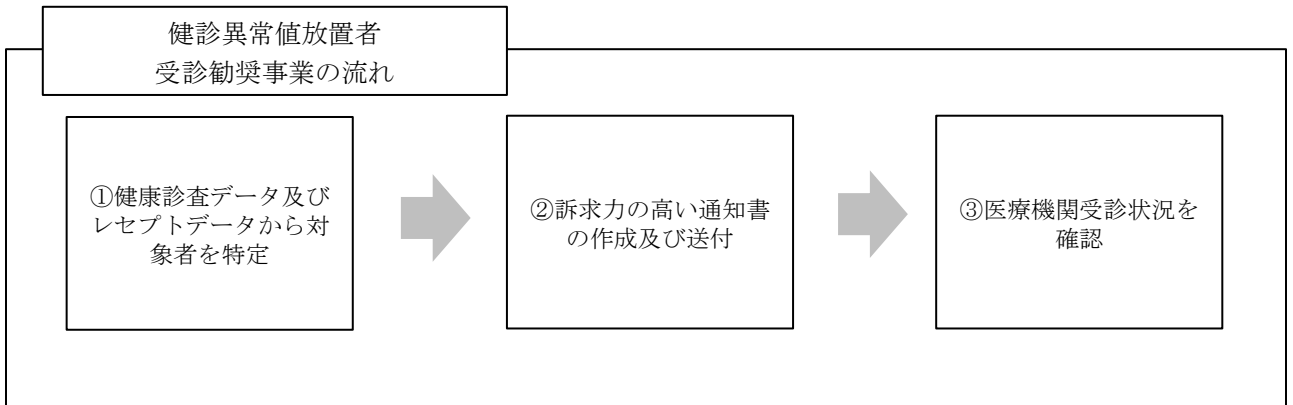
【事業目的】

健診異常値を放置している対象者の医療機関受診

【実施概要】

特定健康診査の受診後、その結果に異常値があるにも関わらず医療機関受診が確認できない対象者に通知書を送付することで受診勧奨を行う。

【実施内容】



【通知書サンプル】

平成XX年XX月XX日

〒 XXX-XXXX
浜中町〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇 〇〇 様

特定健診受診後、病院で詳しい検査を受けられましたか？

今年度、特定健診を受診いただきまして、ありがとうございます。

健診の結果、医療機関での精密検査をお勧めしていましたが、病院での受診結果が当番に届いていないため、大変お手数ですが、病院の受診状況（受診日、受診先、検査結果など）について下記連絡先へお知らせください。

※このお知らせは、平成XX年XX月末日時点 当番割割分の受診状況に基づき、お知らせしています。行き違いの場合は、ご了承ください。

受診がお済みでない方は、次の内容をご一読のうえ、早めの受診をお勧めいたします。

〇〇 〇〇 様 の要精密検査該当項目【**脂質異常：LDL-CXX mg/dL**】

健診の結果、悪玉コレステロールが高いことがわかりました。100mg/dL未満の方と比べて1.5倍～2倍の冠動脈病になりやすいことがわかっています。洋菓子類に多く含まれる動物性脂肪を控え、植物性脂肪（なたね油、ごま油など）や青魚（さば、さんまなど）をとるようにしましょう。ただし、ご自身が糖尿病、慢性腎臓病、心血管病などを持っている場合は、動脈硬化が進行している可能性が高く、いっそう冠動脈病になりやすい状態と考えられます。

医療機関に受診の際は、病院の「ご依頼」用紙と「結果通知」をご持参ください。紛失した場合は、再発行しますので、下記までご連絡ください。

連絡先：福祉保健課 健康推進係 電話62-2307

【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム		
	目標値		評価方法
対象者への通知率 100%	短期	医療機関受診率 75.0%	通知後医療機関を受診したか確認する。
	中長期	医療機関受診率 75.0%	通知後医療機関を受診したか確認する。

【実施スケジュール】

平成30年度～平成35年度に実施することとする。

実施年度	PDCA	実施項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成30年度	D(実行)	対象者特定、準備		⇔										
		指導実施				⇔								
	C(効果測定)	効果測定					⇔							
		効果確認												⇔
	A(改善)	改善計画												⇔
P(計画)	実施計画策定 (平成31年度)												⇔	
平成31年度	D(実行)	対象者特定、準備		⇔										
		指導実施				⇔								
	C(効果測定)	効果測定					⇔							
		効果確認												⇔
	A(改善)	改善計画												⇔
P(計画)	実施計画策定 (平成32年度)												⇔	
平成32年度	D(実行)	対象者特定、準備		⇔										
		指導実施				⇔								
	C(効果測定)	効果測定					⇔							
		効果確認												⇔
	A(改善)	改善計画												⇔
P(計画)	実施計画策定 (平成33年度)												⇔	
平成33年度	D(実行)	対象者特定、準備		⇔										
		指導実施				⇔								
	C(効果測定)	効果測定					⇔							
		効果確認												⇔
	A(改善)	改善計画												⇔
P(計画)	実施計画策定 (平成34年度)												⇔	
平成34年度	D(実行)	対象者特定、準備		⇔										
		指導実施				⇔								
	C(効果測定)	効果測定					⇔							
		効果確認												⇔
	A(改善)	改善計画												⇔
P(計画)	実施計画策定 (平成35年度)												⇔	
平成35年度	D(実行)	対象者特定、準備		⇔										
		指導実施				⇔								
	C(効果測定)	効果測定					⇔							
		効果確認												⇔
	A(改善)	改善計画												⇔
P(計画)	実施計画策定 (平成36年度)												⇔	



(4) 糖尿病性腎症重症化予防事業

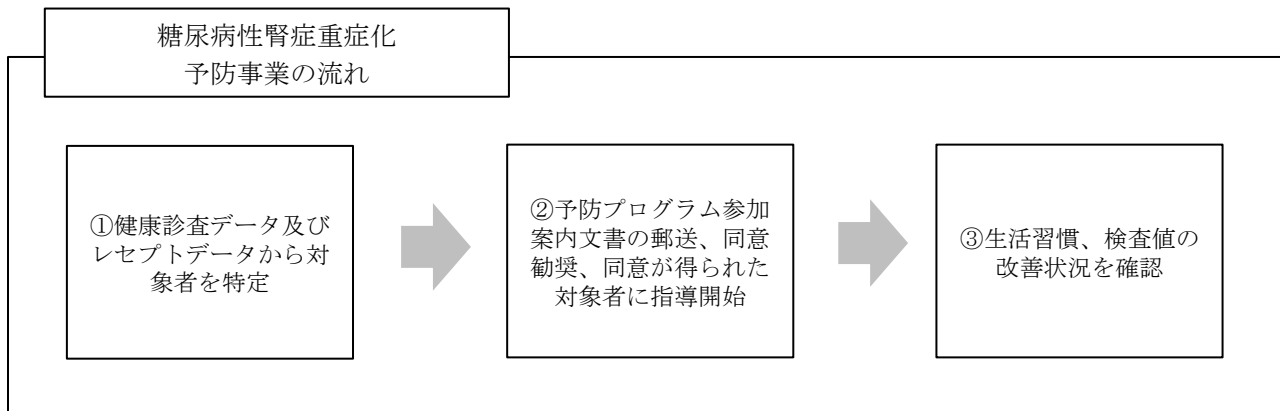
【事業目的】

糖尿病性腎症患者の病期進行阻止

【実施概要】

特定健康診査の検査値とレセプトデータから対象者を特定し、正しい生活習慣を身に付けることができるように専門職より対象者に6カ月間の面談指導と電話指導を行う。

【実施内容】



【目標】

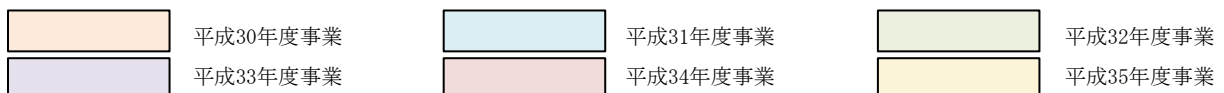
アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者の指導完了率 80.0% 以上	短期 指導完了者の検査値改善率 40.0%	指導後の結果から生活習慣や検査値の改善状況を確認する。
	中長期 新規人工透析患者割合 0%	レセプトデータより新規人工透析患者数の推移を確認する。

【実施スケジュール】

平成30年度～平成35年度に実施することとする。

実施年度	PDCA	実施項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成30年度	D(実行)	対象者特定、準備		←→										
		指導実施				←→								
	C(効果測定)	効果測定				←→								
		効果確認												←→
	A(改善)	改善計画												←→
P(計画)	実施計画策定 (平成31年度)													←→
平成31年度	D(実行)	対象者特定、準備		←→										
		指導実施				←→								
	C(効果測定)	効果測定				←→								
		効果確認												←→
	A(改善)	改善計画												←→
P(計画)	実施計画策定 (平成32年度)													←→
平成32年度	D(実行)	対象者特定、準備		←→										
		指導実施				←→								
	C(効果測定)	効果測定				←→								
		効果確認												←→
	A(改善)	改善計画												←→
P(計画)	実施計画策定 (平成33年度)													←→
平成33年度	D(実行)	対象者特定、準備		←→										
		指導実施				←→								
	C(効果測定)	効果測定				←→								
		効果確認												←→
	A(改善)	改善計画												←→
P(計画)	実施計画策定 (平成34年度)													←→
平成34年度	D(実行)	対象者特定、準備		←→										
		指導実施				←→								
	C(効果測定)	効果測定				←→								
		効果確認												←→
	A(改善)	改善計画												←→
P(計画)	実施計画策定 (平成35年度)													←→
平成35年度	D(実行)	対象者特定、準備		←→										
		指導実施				←→								
	C(効果測定)	効果測定				←→								
		効果確認												←→
	A(改善)	改善計画												←→
P(計画)	実施計画策定 (平成36年度)													←→



(5) ジェネリック医薬品差額通知事業

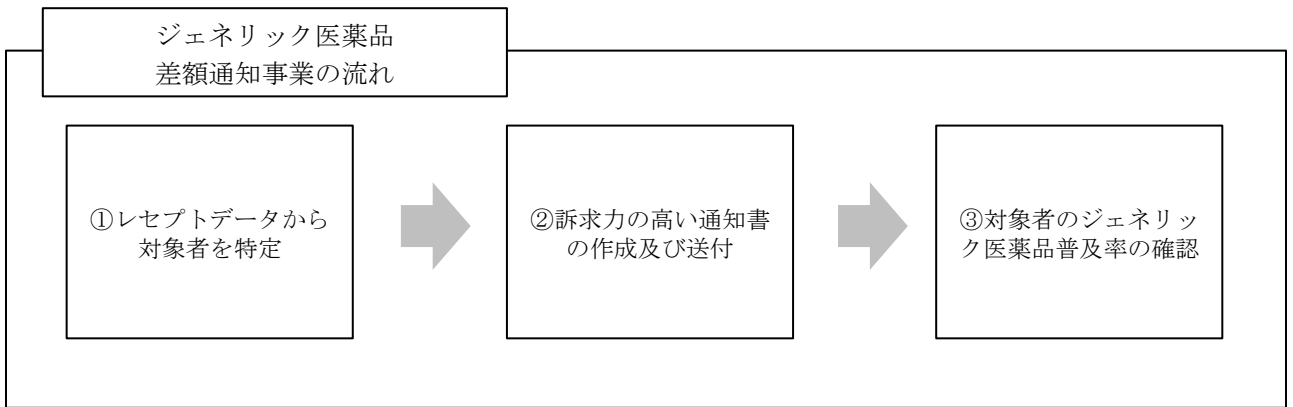
【事業目的】

ジェネリック医薬品の普及率向上

【実施概要】

レセプトデータから、ジェネリック医薬品の使用率が低く、ジェネリック医薬品への切り替えによる薬剤費軽減額が一定以上の対象者を特定する。通知書を対象者に送付することで、ジェネリック医薬品への切り替えを促す。

【実施内容】



【通知書サンプル】

0000-0000
浜中町 00000000

浜中町役場
新居 保険年金係
TEL 0153 (62) 2187

〇〇 〇〇 様

安くすることが可能なお薬代 (※1)
0,000円

※1 上記金額詳細は下記参照

今後、平成00年0月様方分と同様の内容のジェネリック医薬品に切り替えた薬費が安くなることをお知らせいたします。

ジェネリック医薬品使用促進のお知らせ

このお知らせには、過去に処方された薬をジェネリック医薬品に切り替えた場合の安くなること可能なお薬代を参考にご覧いただけます。ジェネリック医薬品に切り替えることで薬費を安くすることができます。ジェネリック医薬品に切り替える際は、お薬代と薬の成分が同じであることをご確認ください。既にジェネリック医薬品に切り替えている方は、引き続きのご利用を歓迎いたします。

平成00年0月の処方分実績				ジェネリック医薬品に切り替えた場合のお薬代		
医療機関名	お薬の 薬名	数量	日数	お薬代 単価×数量 ×日数	自己負担額 (※2、※3) (お薬代)	安くなる金額 (※2、※3)
〇〇〇薬局	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	00.0	0	0.000	0.000	0.000円
	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	00.0	0	0.000	0.000	0.000円
	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX	00.0	0	0.000	0.000	0.000円
	合計			0.000	0.000	0.000円

※1 薬にかかった金額のみを表示しています。実際の薬剤師への支払金額には、技術料報酬などがふくまれています。
 ※2 ジェネリック医薬品は複数存在する場合があります。金額にも幅があります。
 ※3 今回の通知は、価格差の少ないもので計算しています。
 ※4 先発医薬品とジェネリック医薬品は同一成分ですが、使用できる病気(効能)は異なる場合があります。ジェネリック医薬品は、薬によって取り替えていない限り、取り替える場合があります。
 ※5 また、副作用により安くない場合があります。
 ※6 上記薬名、自己負担金額は、処方箋の中でジェネリック医薬品の置換が可能と考えられる薬品の内、最も低額です。自己負担額は窓口負担額とは異なる場合があります。

0000000 - 1

ジェネリック医薬品とは？

ジェネリック医薬品は、厚生労働省が先発医薬品と同等と認めた医薬品です。先発医薬品の特許満了後に、薬の有効成分が同等で効能及び効果が同じ医薬品として新たに申請され、他会社が同じ成分で開発した安価な医薬品です。

効き目は確か？安全性は？

これまで効き目や安全性が実証されてきたお薬と同等と確認された上で製造、販売が認可されています。厚生労働省が定めた厳しい試験により、有効性・安全性も認められています。

どんな種類があるの？

高血圧や高脂血症のお薬、糖尿病のお薬などさまざまな分野や症状に対応しており、またカプセル、錠剤、点眼剤などその形状もさまざまです。

どのくらい安いの？

薬代としては3割以上中には5割以上安くなる薬もあります。先発医薬品の開発が10～15年、数100億円もの投資が必要といわれるのに対して、ジェネリック医薬品の開発期間は3年ほどと短く、また研究開発費用も当然低くなります。これらのコストを安く抑えることができるので、それが薬の価格にも反映されることとなります。

ジェネリック医薬品に切り替えを希望される際は当常備を持参し主治医又は薬剤師に指示ください。

お問い合わせ先
浜中町役場
町民課 保険年金係
TEL.0153 (62) 2187

【目標値及び評価方法】

アウトプット・アウトカムを以下の通り設定する。

アウトプット	アウトカム	
	目標値	評価方法
対象者への通知率 100%	短期	通知対象者のジェネリック医薬品普及率(数量ベース) 70.0%
	中長期	ジェネリック医薬品普及率(数量ベース) 80.0%

【実施スケジュール】

平成30年度～平成35年度に実施することとする。

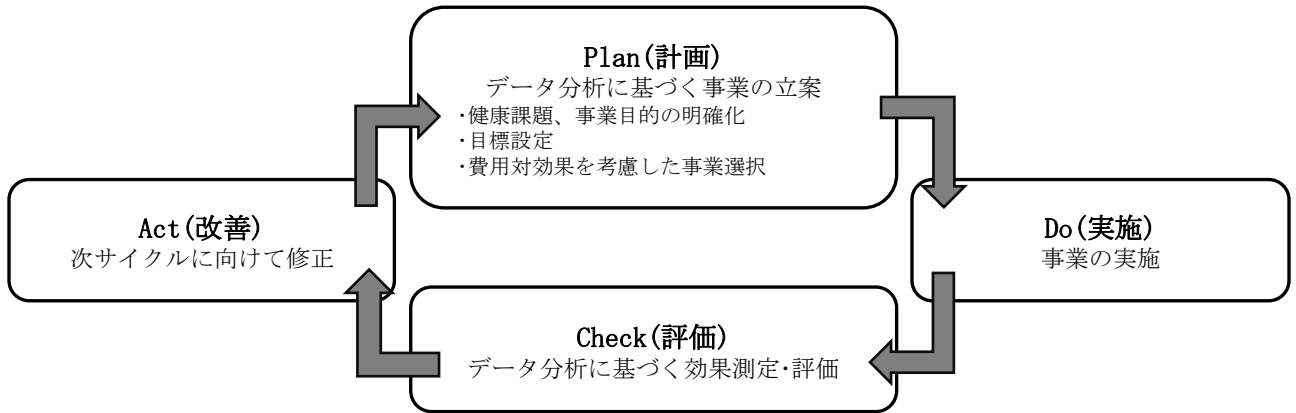
実施年度	PDCA	実施項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成30年度	D(実行)	対象者特定、準備	←											
		指導実施	←											
	C(効果測定)	効果測定	←											
		効果確認	←											
	A(改善)	改善計画	←											
P(計画)	実施計画策定 (平成31年度)	←												
平成31年度	D(実行)	対象者特定、準備	←											
		指導実施	←											
	C(効果測定)	効果測定	←											
		効果確認	←											
	A(改善)	改善計画	←											
P(計画)	実施計画策定 (平成32年度)	←												
平成32年度	D(実行)	対象者特定、準備	←											
		指導実施	←											
	C(効果測定)	効果測定	←											
		効果確認	←											
	A(改善)	改善計画	←											
P(計画)	実施計画策定 (平成33年度)	←												
平成33年度	D(実行)	対象者特定、準備	←											
		指導実施	←											
	C(効果測定)	効果測定	←											
		効果確認	←											
	A(改善)	改善計画	←											
P(計画)	実施計画策定 (平成34年度)	←												
平成34年度	D(実行)	対象者特定、準備	←											
		指導実施	←											
	C(効果測定)	効果測定	←											
		効果確認	←											
	A(改善)	改善計画	←											
P(計画)	実施計画策定 (平成35年度)	←												
平成35年度	D(実行)	対象者特定、準備	←											
		指導実施	←											
	C(効果測定)	効果測定	←											
		効果確認	←											
	A(改善)	改善計画	←											
P(計画)	実施計画策定 (平成36年度)	←												



1. データヘルス計画の見直し

(1) 評価

本計画の目的及び目標の達成状況については、毎年度評価を行うこととし、達成状況により必要に応じて次年度の実施計画の見直しを行う。



厚生労働省 保険局「データヘルス計画 作成の手引き」(平成26年12月)より

(2) 評価時期

本計画の評価については、各事業のスケジュールに基づき実施する。

2. 計画の公表・周知

本計画は、広報、ホームページ等で公表するとともに、本実施計画をあらゆる機会を通じて周知・啓発を図る。また、目標の達成状況等の公表に努めるものとする。

3. 事業運営上の留意事項

保健事業の推進に当たっては、保健部門等との連携が重要になる。地域全体の健康課題を底上げするためのポピュレーションアプローチの実施等は保健部門との連携により事業を実施する。また、生活習慣病の合併症は、要介護状態の原因疾患になることも多いため、65歳以上の前期高齢者に関する事業は、介護部門と連携する。

4. 個人情報の保護

個人情報の取り扱いについては、「個人情報の保護に関する法律」「国民健康保険組合における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」「個人情報保護条例」「情報セキュリティポリシー」に基づき管理する。また、業務を外部に委託する際も同様に扱われるよう委託契約書に定めるものとする。

地区分析

1. 大分類による疾病別医療費地区別統計

平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)に発生しているレセプトより、疾病項目毎に医療費統計を地区別に示す。

海岸方面	農村方面
------	------

【海岸方面】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を **網掛け** 表示する。

疾病項目(大分類)	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	レセプト 件数 ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円) ※	順位
I. 感染症及び寄生虫症	5,434,032	1.9%	14	1,136	9	16,981	17
II. 新生物<腫瘍>	53,234,740	18.6%	1	884	13	241,976	1
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5,610,697	2.0%	13	383	15	62,341	9
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	21,336,905	7.5%	5	3,130	3	64,075	8
V. 精神及び行動の障害	10,970,977	3.8%	9	889	12	108,624	4
VI. 神経系の疾患	12,769,958	4.5%	8	1,689	7	69,402	7
VII. 眼及び付属器の疾患	9,289,125	3.2%	11	911	11	40,742	15
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	566,160	0.2%	18	188	17	8,450	19
IX. 循環器系の疾患	41,278,223	14.4%	2	3,030	4	138,054	2
X. 呼吸器系の疾患	30,693,085	10.7%	4	3,404	1	60,778	10
X I. 消化器系の疾患 ※	17,806,998	6.2%	7	3,362	2	43,968	14
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	7,580,106	2.6%	12	1,739	6	24,691	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	35,178,053	12.3%	3	2,823	5	101,965	5
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	19,293,492	6.7%	6	978	10	94,576	6
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	540,641	0.2%	19	53	20	44,780	12
X VI. 周産期に発生した病態 ※	608,379	0.2%	16	6	21	113,375	3
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	606,635	0.2%	17	63	19	43,976	13
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,533,137	1.2%	15	1,276	8	12,815	18
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	9,470,505	3.3%	10	563	14	54,743	11
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	117,382	0.0%	21	209	16	2,730	21
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%	22	0	22	0	22
分類外	157,530	0.1%	20	88	18	5,251	20
合計	286,076,760			40,103		1,354,294	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

海岸方面	農村方面
------	------

【農村方面】大分類による疾病別医療費統計

※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病項目(大分類)	医療費総計 ※ (円)	構成比 (%)	順位	レセプト※ 件数	順位	患者一人 ※当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	5,434,032	1.9%	14	1,136	9	16,981	17
II. 新生物<腫瘍>	53,234,740	18.6%	1	884	13	241,976	1
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	5,610,697	2.0%	13	383	15	62,341	9
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	21,336,905	7.5%	5	3,130	3	64,075	8
V. 精神及び行動の障害	10,970,977	3.8%	9	889	12	108,624	4
VI. 神経系の疾患	12,769,958	4.5%	8	1,689	7	69,402	7
VII. 眼及び付属器の疾患	9,289,125	3.2%	11	911	11	40,742	15
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	566,160	0.2%	18	188	17	8,450	19
IX. 循環器系の疾患	41,278,223	14.4%	2	3,030	4	138,054	2
X. 呼吸器系の疾患	30,693,085	10.7%	4	3,404	1	60,778	10
X I. 消化器系の疾患 ※	17,806,998	6.2%	7	3,362	2	43,968	14
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	7,580,106	2.6%	12	1,739	6	24,691	16
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	35,178,053	12.3%	3	2,823	5	101,965	5
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	19,293,492	6.7%	6	978	10	94,576	6
X V. 妊娠、分娩及び産じょく ※	540,641	0.2%	19	53	20	44,780	12
X VI. 周産期に発生した病態 ※	608,379	0.2%	16	6	21	113,375	3
X VII. 先天奇形、変形及び染色体異常	606,635	0.2%	17	63	19	43,976	13
X VIII. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,533,137	1.2%	15	1,276	8	12,815	18
X IX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	9,470,505	3.3%	10	563	14	54,743	11
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	117,382	0.0%	21	209	16	2,730	21
X X II. 特殊目的用コード	0	0.0%	22	0	22	0	22
分類外	157,530	0.1%	20	88	18	5,251	20
合計	286,076,760			40,103		1,354,294	

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費総計…大分類の疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

※レセプト件数…大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(1件のレセプトに複数の疾病があるため)。

※消化器系の疾患…歯科レセプト情報と思われるものはデータ化対象外のため算出できない。

※妊娠、分娩及び産じょく…乳房腫大・骨盤変形等の傷病名が含まれるため、“男性”においても医療費が発生する可能性がある。

※周産期に発生した病態…ABO因子不適合等の傷病名が含まれるため、周産期(妊娠22週から出生後7日未満)以外においても医療費が発生する可能性がある。

2. 中分類による疾病別医療費地区別統計

疾病分類表における中分類単位で地区毎に集計し、医療費が高額な上位10疾病を以下に示す。

海岸方面	農村方面
------	------

【海岸方面】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者一人当たりの 医療費(円)
1	0901	高血圧性疾患	25,368,755	5.3%	53,861
2	0208	悪性リンパ腫	23,981,011	5.0%	1,712,929
3	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	22,028,828	4.6%	84,402
4	0402	糖尿病	20,140,634	4.2%	40,524
5	0903	その他の心疾患	17,951,231	3.7%	59,050
6	1113	その他の消化器系の疾患	16,612,825	3.4%	39,367
7	0403	脂質異常症	14,124,747	2.9%	37,170
8	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	13,195,234	2.7%	101,502
9	0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	12,859,599	2.7%	389,685
10	0606	その他の神経系の疾患	12,590,687	2.6%	39,844

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

【農村方面】中分類による疾病別統計(医療費上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円) ※	構成比(%) (医療費総計全体に 対して占める割合)	患者一人当たりの 医療費(円)
1	0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	13,112,404	4.6%	2,622,481
2	0903	その他の心疾患	13,082,321	4.6%	95,491
3	0209	白血病	12,914,570	4.5%	3,228,643
4	1402	腎不全	12,043,618	4.2%	1,204,362
5	0402	糖尿病	11,891,826	4.2%	57,727
6	1113	その他の消化器系の疾患	10,527,612	3.7%	44,609
7	1011	その他の呼吸器系の疾患	9,791,354	3.4%	52,082
8	1302	関節症	9,225,114	3.2%	129,931
9	0606	その他の神経系の疾患	8,975,862	3.1%	53,112
10	0901	高血圧性疾患	8,723,500	3.0%	48,735

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※医療費…中分類における疾病項目毎に集計するため、データ化時点で医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合集計できない。そのため他統計と一致しない。

疾病分類表における中分類単位で地区毎に集計し、患者数が多い上位10疾病を以下に示す。

海岸方面	農村方面
------	------

【海岸方面】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)	患者一人当たりの 医療費(円)
1	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	3,265,250	498	32.3%	6,557
2	0402	糖尿病	20,140,634	497	32.3%	40,524
3	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	8,244,578	478	31.0%	17,248
4	0901	高血圧性疾患	25,368,755	471	30.6%	53,861
5	1006	アレルギー性鼻炎	5,274,398	442	28.7%	11,933
6	1113	その他の消化器系の疾患	16,612,825	422	27.4%	39,367
7	0403	脂質異常症	14,124,747	380	24.7%	37,170
8	1202	皮膚炎及び湿疹	6,048,938	371	24.1%	16,304
9	1105	胃炎及び十二指腸炎	4,508,294	365	23.7%	12,351
10	1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	1,277,220	332	21.6%	3,847

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

【農村方面】中分類による疾病別統計(患者数上位10疾病)

順位	中分類疾病項目		医療費 (円)	患者数 (人) ※	構成比(%) (患者数全体に 対して占める割合)	患者一人当たりの 医療費(円)
1	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	2,173,003	320	8.1%	6,791
2	1006	アレルギー性鼻炎	5,119,009	315	7.9%	16,251
3	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	3,524,102	274	6.9%	12,862
4	1202	皮膚炎及び湿疹	4,054,852	240	6.0%	16,895
5	1113	その他の消化器系の疾患	10,527,612	236	5.9%	44,609
6	0402	糖尿病	11,891,826	206	5.2%	57,727
7	0703	屈折及び調節の障害	928,226	190	4.8%	4,885
8	1011	その他の呼吸器系の疾患	9,791,354	188	4.7%	52,082
9	0901	高血圧性疾患	8,723,500	179	4.5%	48,735
10	1105	胃炎及び十二指腸炎	2,075,067	178	4.5%	11,658

データ化範囲(分析対象)…入院(DPCを含む)、入院外、調剤の電子レセプト。

対象診療年月は平成28年4月～平成29年3月診療分(12カ月分)。

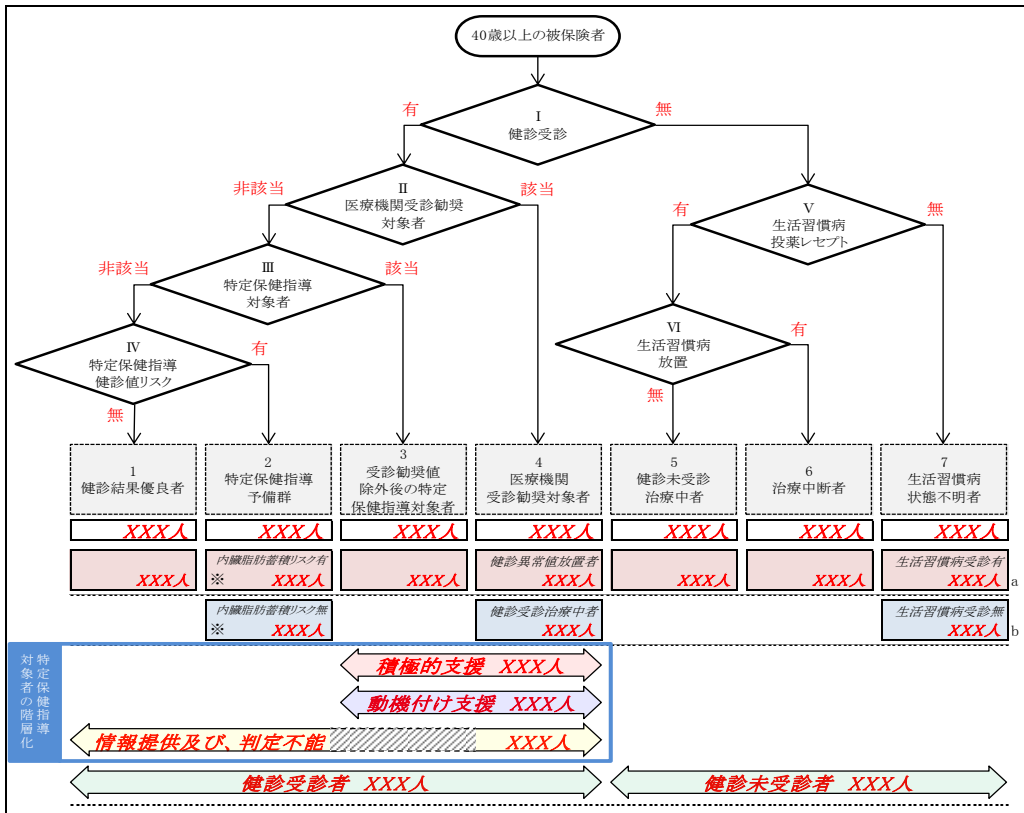
資格確認日…各月、1日でも資格があれば分析対象としている。

株式会社データホライゾン 医療費分解技術を用いて疾病毎に点数をグルーピングし算出。

※患者数…中分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

1. 「指導対象者群分析」のグループ分けの見方

特定健康診査及びレセプトデータによる指導対象者群分析



【フロー説明】

- I 健診受診 ……健診受診の有無を判定。
- II 医療機関受診勧奨対象者 ……健診値(血糖、血圧、脂質)のいずれかが、厚生労働省が定めた受診勧奨判定値を超えて受診勧奨対象者に該当するか判定。
- III 特定保健指導対象者 ……厚生労働省が定めた「標準的な健診・保健指導プログラム【改訂版】」に沿って、特定保健指導対象者に該当するか判定。
- IV 特定保健指導健診値リスク……厚生労働省が定めた保健指導判定値により、健診値(血糖、血圧、脂質)のリスクの有無を判定。判定に喫煙は含めない。
- V 生活習慣病投薬レセプト ……生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)に関する、投薬の有無を判定。
- VI 生活習慣病放置 ……生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)を治療している患者で、一定期間の受診状況により生活習慣病放置の有無を判定。

【グループ別説明】

- 健診受診あり
- 1. 健診結果優良者 ……保健指導判定値(血糖、血圧、脂質)に該当しない者。
 - 2. 特定保健指導予備群 ……保健指導判定値(血糖、血圧、脂質)に該当しているが、その他の条件(服薬有り等)により保健指導対象者でない者。
 - 内臓脂肪蓄積リスク有 ……「2. 特定保健指導予備群」のうち、服薬が有るため特定保健指導対象者にならなかった者。
 - 内臓脂肪蓄積リスク無 ……「2. 特定保健指導予備群」のうち、内臓脂肪蓄積リスク(腹囲・BMI)がないため特定保健指導対象者にならなかった者。
 - 3. 受診勧奨値除外後の特定保健指導対象者……受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)に該当していない特定保健指導対象者。
 - 4. 医療機関受診勧奨対象者 ……受診勧奨判定値(血糖、血圧、脂質)に該当する者。
 - 健診異常値放置者 ……「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、健診受診後に生活習慣病に関する医療機関受診がない者。
 - 健診受診治療中者 ……「4. 医療機関受診勧奨対象者」のうち、健診受診後に生活習慣病に関する医療機関受診がある者。または健診受診後生活習慣病に関する医療機関受診はないが、健診受診後間もないため病院受診の意志がない「健診異常値放置者」と判断できない者。
- 健診受診なし
- 5. 健診未受診治療中者 ……生活習慣病治療中の者。
 - 6. 治療中断者 ……過去に生活習慣病の治療をしていたが、生活習慣病に関する医療機関受診が一定期間ない者。
 - 7. 生活習慣病状態不明者……生活習慣病の投薬治療をしていない者。
 - 生活習慣病受診有 ……「7. 生活習慣病状態不明者」のうち、生活習慣病に関する医療機関受診がある者。
 - 生活習慣病受診無 ……「7. 生活習慣病状態不明者」のうち、生活習慣病に関する医療機関受診がない者。

2. 用語解説集

用語		説明
ア 行	HDLコレステロール	余分なコレステロールを回収して肝臓に運び、動脈硬化を抑える。善玉コレステロール。
	LDLコレステロール	肝臓で作られたコレステロールを全身へ運ぶ役割を担っており、増えすぎると動脈硬化を起こして心筋梗塞や脳梗塞を発症させる。悪玉コレステロール。
カ 行	空腹時血糖	空腹時に血液中にあるブドウ糖の量を示している。検査値が高いと糖尿病の疑いがある。
	血圧(収縮期・拡張期)	血管にかかる圧力のこと。心臓が血液を送り出すときに示す最大血圧を収縮期血圧、全身から戻った血液が心臓にたまっているときに示す最小血圧を拡張期血圧という。
	高齢化率	65歳以上の高齢者が総人口に占める割合。
サ 行	ジェネリック医薬品	先発医薬品と治療学的に同等であるものとして製造販売が承認され、一般的に研究開発に要する費用が低く抑えられることから、先発医薬品に比べて薬価が安い医薬品。
	疾病分類	「疾病、傷害及び死因の統計分類」の「ICD-10(2013年版) 準拠 疾病分類表」を使用。
	腎不全	腎臓の機能が低下し、老廃物を十分排泄できなくなったり、体内に不要なものや体にとって有害なものがたまっている状態。
	積極的支援	特定健康診査の結果により、生活習慣病の発症リスクがより高い者に対して行われる保健指導。「動機付け支援」の内容に加え、対象者が主体的に生活習慣の改善を継続できるよう、面接、電話等を用いて、3ヶ月以上の定期的・継続的な支援を行う。
タ 行	中性脂肪	体を動かすエネルギー源となる物質であるが、蓄積することにより、肥満の原因になる。
	動機付け支援	特定健診の結果により、生活習慣病の発症リスクが高い者に対して行われる保健指導。医師・保健師・管理栄養士等による個別、またはグループ面接により、対象者に合わせた行動計画の策定と保健指導が行われる。初回の保健指導修了後、対象者は行動計画を実践し、6か月後に面接、電話等で結果の確認と評価を行う。
	特定健康診査	平成20年4月から開始された、生活習慣予防のためのメタボリックシンドロームに着目した健康診査のこと。特定健診。40～74歳の医療保険加入者を対象とする。
	特定保健指導	特定健診の結果により、生活習慣病の発症リスクが高く、生活改善により生活習慣病の予防効果が期待できる人に対して行う保健指導のこと。特定保健指導対象者の選定方法により「動機付け支援」「積極的支援」に該当した人に対し実施される。
ナ 行	日本再興戦略	安倍内閣が掲げる成長戦略。日本産業再興プラン・戦略市場創造プラン・国際展開戦略の3つのアクションプランを軸とする。データヘルス計画に関する内容は、戦略市場創造プランの【テーマ1：国民の「健康寿命」の延伸】の中に「予防・健康管理の推進に関する新たな仕組みづくり」の一つとして示されている。
ハ 行	HbA1c	ブドウ糖と血液中のヘモグロビンが結びついたもので、過去1～2か月の平均的な血糖の状態を示す検査に使用される。
マ 行	メタボリックシンドローム	内臓脂肪型肥満に高血圧、高血糖、脂質代謝異常が組み合わさったり、心臓病や脳卒中などの動脈硬化性疾患を招きやすい状態。内臓脂肪型肥満(内臓肥満・腹部肥満)に加えて、血圧・血糖・脂質の基準のうち2つ以上に該当する状態を「メタボリックシンドローム」、1つのみ該当する状態を「メタボリックシンドローム予備群」という。
ヤ 行	有所見	検査の結果、何らかの異常(検査基準値を上回っている等)が認められたことをいう。
ラ 行	レセプト	診療報酬請求明細書の通称。

3. 疾病分類表(2013年版)

コード	疾病分類	主な疾病		
I. 感染症及び寄生虫症				
0101	腸管感染症	下痢症	急性胃腸炎	感染性胃腸炎
0102	結核	肺結核	結核性胸膜炎	潜在性結核感染症
0103	主として性的伝播様式をとる感染症	梅毒	クラミジア頸管炎	淋病
0104	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	尋常性疣贅	帯状疱疹	単純ヘルペス
0105	ウイルス性肝炎	B型肝炎	C型肝炎	C型慢性肝炎
0106	その他のウイルス性疾患	アデノウイルス感染症	流行性角結膜炎	RSウイルス感染症
0107	真菌症	足白癬	皮膚カンジダ症	爪白癬
0108	感染症及び寄生虫症の続発・後遺症	陳旧性肺結核	肺結核後遺症	小児麻疹後遺症
0109	その他の感染症及び寄生虫症	ヘリコバクター・ピロリ感染症	溶連菌感染症	敗血症
II. 新生物<腫瘍>				
0201	胃の悪性新生物<腫瘍>	胃癌	早期胃癌	胃体部癌
0202	結腸の悪性新生物<腫瘍>	大腸癌	S状結腸癌	上行結腸癌
0203	直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	直腸癌	直腸S状部結腸癌	直腸癌術後再発
0204	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	肝癌	肝細胞癌	原発性肝癌
0205	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	肺癌	上葉肺癌	下葉肺癌
0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>	乳癌	乳房上外側部乳癌	乳癌再発
0207	子宮の悪性新生物<腫瘍>	子宮体癌	子宮頸癌	子宮癌
0208	悪性リンパ腫	悪性リンパ腫	非ホジキンリンパ腫	びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
0209	白血病	成人T細胞白血病リンパ腫	白血病	慢性骨髄性白血病
0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌	睪癌	膀胱癌
0211	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	子宮筋腫	脳腫瘍	肺腫瘍
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害				
0301	貧血	鉄欠乏性貧血	貧血	巨赤芽球性貧血
0302	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	播種性血管内凝固	血液凝固異常	血小板減少症
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患				
0401	甲状腺障害	甲状腺機能低下症	甲状腺機能亢進症	甲状腺腫
0402	糖尿病	糖尿病	2型糖尿病	糖尿病網膜症
0403	脂質異常症	高脂血症	高コレステロール血症	脂質異常症
0404	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	脱水症	高尿酸血症	卵巣機能不全
V. 精神及び行動の障害				
0501	血管性及び詳細不明の認知症	認知症	血管性認知症	老年精神病
0502	精神作用物質使用による精神及び行動の障害	ニコチン依存症	アルコール依存症	急性アルコール中毒
0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	統合失調症	統合失調症様状態	幻覚妄想状態
0504	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	うつ病	うつ状態	躁うつ病
0505	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	不安神経症	神経症	心身症
0506	知的障害<精神遅滞>	知的障害	軽度知的障害	重度知的障害
0507	その他の精神及び行動の障害	摂食障害	器質性精神障害	せん妄

コード	疾病分類	主な疾病		
VI. 神経系の疾患				
0601	パーキンソン病	パーキンソン症候群	パーキンソン病	パーキンソン病Yahr 3
0602	アルツハイマー病	アルツハイマー型認知症	アルツハイマー病	アルツハイマー型老年認知症
0603	てんかん	てんかん	症候性てんかん	精神運動発作
0604	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	片麻痺	脳性麻痺	不全麻痺
0605	自律神経系の障害	自律神経失調症	神経調節性失神	自律神経障害
0606	その他の神経系の疾患	不眠症	片頭痛	睡眠時無呼吸症候群
VII. 眼及び付属器の疾患				
0701	結膜炎	アレルギー性結膜炎	結膜炎	慢性結膜炎
0702	白内障	白内障	加齢性白内障	後発白内障
0703	屈折及び調節の障害	近視性乱視	遠視性乱視	老視
0704	その他の眼及び付属器の疾患	ドライアイ	緑内障	眼精疲労
VIII. 耳及び乳様突起の疾患				
0801	外耳炎	外耳炎	外耳湿疹	急性外耳炎
0802	その他の外耳疾患	耳垢栓塞	耳介軟骨膜炎	耳瘻孔
0803	中耳炎	滲出性中耳炎	急性中耳炎	中耳炎
0804	その他の中耳及び乳様突起の疾患	耳管狭窄症	耳管機能低下	真珠腫性中耳炎
0805	メニエール病	メニエール病	メニエール症候群	内耳性めまい
0806	その他の内耳疾患	良性発作性頭位めまい症	末梢性めまい症	耳性めまい
0807	その他の耳疾患	感音難聴	難聴	耳鳴症
IX. 循環器系の疾患				
0901	高血圧性疾患	高血圧症	本態性高血圧症	高血圧性心疾患
0902	虚血性心疾患	狭心症	急性心筋梗塞	心筋梗塞
0903	その他の心疾患	心不全	不整脈	慢性心不全
0904	くも膜下出血	くも膜下出血	くも膜下出血後遺症	脳動脈瘤破裂
0905	脳内出血	脳出血	脳出血後遺症	視床出血
0906	脳梗塞	脳梗塞	脳梗塞後遺症	多発性脳梗塞
0907	脳動脈硬化（症）	脳動脈硬化症	動脈硬化性脳症	
0908	その他の脳血管疾患	内頸動脈狭窄症	頸動脈硬化症	脳血管障害
0909	動脈硬化（症）	閉塞性動脈硬化症	動脈硬化症	動脈硬化性網膜症
0911	低血圧（症）	起立性低血圧症	低血圧症	起立性調節障害
0912	その他の循環器系の疾患	深部静脈血栓症	末梢循環障害	慢性動脈閉塞症
X. 呼吸器系の疾患				
1001	急性鼻咽頭炎 [かぜ] <感冒>	感冒	急性鼻炎	急性鼻咽頭炎
1002	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	咽頭炎	急性咽頭炎	扁桃炎
1003	その他の急性上気道感染症	急性上気道炎	急性咽頭喉頭炎	急性副鼻腔炎
1004	肺炎	肺炎	急性肺炎	マイコプラズマ肺炎
1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	急性気管支炎	マイコプラズマ気管支炎	クループ性気管支炎

コード	疾病分類	主な疾病		
1006	アレルギー性鼻炎	アレルギー性鼻炎	花粉症	季節性アレルギー性鼻炎
1007	慢性副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎	副鼻腔炎	慢性副鼻腔炎急性増悪
1008	急性又は慢性と明示されない気管支炎	気管支炎	気管気管支炎	びまん性気管支炎
1009	慢性閉塞性肺疾患	慢性気管支炎	肺気腫	慢性閉塞性肺疾患
1010	喘息	気管支喘息	喘息性気管支炎	気管支喘息発作
1011	その他の呼吸器系の疾患	インフルエンザ	呼吸不全	誤嚥性肺炎
X I. 消化器系の疾患				
1101	う蝕	う蝕	二次う蝕	う蝕第2度
1102	歯肉炎及び歯周疾患	歯周炎	歯肉炎	歯冠周囲炎
1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	顎関節症	歯痛	顎関節炎
1104	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	胃潰瘍	十二指腸潰瘍	出血性胃潰瘍
1105	胃炎及び十二指腸炎	慢性胃炎	胃炎	急性胃炎
1106	痔核	内痔核	痔核	外痔核
1107	アルコール性肝疾患	アルコール性肝障害	アルコール性肝炎	アルコール性肝硬変
1108	慢性肝炎（アルコール性のものを除く）	慢性肝炎	活動性慢性肝炎	慢性肝炎増悪
1109	肝硬変（アルコール性のものを除く）	肝硬変症	原発性胆汁性肝硬変	非代償性肝硬変
1110	その他の肝疾患	肝機能障害	脂肪肝	肝障害
1111	胆石症及び胆のう炎	胆のう結石症	胆のう炎	総胆管結石
1112	膵疾患	膵炎	急性膵炎	慢性膵炎
1113	その他の消化器系の疾患	便秘症	逆流性食道炎	口内炎
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患				
1201	皮膚及び皮下組織の感染症	皮膚感染症	蜂窩織炎	膿疱疹性湿疹
1202	皮膚炎及び湿疹	湿疹	皮膚炎	アトピー性皮膚炎
1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮脂欠乏症	皮脂欠乏性湿疹	じんま疹
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患				
1301	炎症性多発性関節障害	関節リウマチ	痛風	関節炎
1302	関節症	変形性膝関節症	変形性関節症	変形性股関節症
1303	脊椎障害（脊椎症を含む）	腰部脊柱管狭窄症	変形性腰椎症	頸椎症
1304	椎間板障害	腰椎椎間板症	腰椎椎間板ヘルニア	頸椎椎間板ヘルニア
1305	頸腕症候群	頸肩腕症候群	頸肩腕障害	
1306	腰痛症及び坐骨神経痛	腰痛症	坐骨神経痛	筋筋膜性腰痛症
1307	その他の脊柱障害	腰椎すべり症	背部痛	頸部痛
1308	肩の傷害<損傷>	肩関節周囲炎	肩関節腱板炎	肩石灰性腱炎
1309	骨の密度及び構造の障害	骨粗鬆症	閉経後骨粗鬆症	脊椎骨粗鬆症
1310	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	筋肉痛	神経痛	関節痛
X IV. 腎尿路生殖器系の疾患				
1401	糸球体疾患及び腎尿細管間質性疾患	腎炎	腎盂腎炎	水腎症
1402	腎不全	慢性腎不全	腎性貧血	腎不全

コード	疾病分類	主な疾病		
1403	尿路結石症	腎結石症	尿管結石症	尿路結石症
1404	その他の腎尿路系の疾患	膀胱炎	腎機能低下	尿路感染症
1405	前立腺肥大（症）	前立腺肥大症	前立腺症	
1406	その他の男性生殖器の疾患	慢性前立腺炎	前立腺炎	亀頭包皮炎
1407	月経障害及び閉経周辺期障害	更年期症候群	月経困難症	萎縮性膣炎
1408	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	子宮腔部びらん	細菌性膣炎	膣炎
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく				
1501	流産	稽留流産	異所性妊娠	絨毛性疾患
1502	妊娠高血圧症候群	妊娠高血圧症候群	重症妊娠高血圧症候群	子癇
1503	単胎自然分娩	自然頭位分娩	自然分娩	単胎自然分娩
1504	その他の妊娠, 分娩及び産じょく	切迫流産	子宮内感染症	血液型不適合
X VI. 周産期に発生した病態				
1601	妊娠及び胎児発育に関連する障害	子宮内胎児発育遅延	低出生体重児	早産児
1602	その他の周産期に発生した病態	新生児黄疸	胎児ジストレス	A B O 因子不適合
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常				
1701	心臓の先天奇形	心房中隔欠損症	心室中隔欠損症	先天性心疾患
1702	その他の先天奇形, 変形及び染色体異常	足底角化症	角皮症	毛孔性苔癬
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの				
1800	症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	頭痛	嘔吐症	めまい症
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響				
1901	骨折	腰椎圧迫骨折	肋骨骨折	大腿骨頸部骨折
1902	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	脳挫傷	外傷性脳出血	硬膜下血腫
1903	熱傷及び腐食	熱傷	第2度熱傷	手熱傷
1904	中毒	刺虫症	蜂刺症	食中毒
1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	打撲傷	結膜異物	捻挫
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用				
2101	検査及び診査のための保健サービスの利用者	検診	健康診断	胃癌検診
2102	予防接種	予防接種		
2103	正常妊娠及び産じょくの管理並びに家族計画	妊娠	正常妊娠	多産婦
2104	歯の補てつ			
2105	特定の処置（歯の補てつを除く）及び保健ケアのための保健サービスの利用者	抜釘	気管切開口に対する手当て	骨髄移植ドナー
2106	その他の理由による保健サービスの利用者	白内障術後	ベースメーカ植え込み後	人工股関節置換術後
X X II. 特殊目的用コード				
2210	重症急性呼吸器症候群 [SARS]	重症急性呼吸器症候群		
2220	その他の特殊目的用コード			
分類外				
9999	分類外	ICD-10及び疾病分類に該当のない疾病		